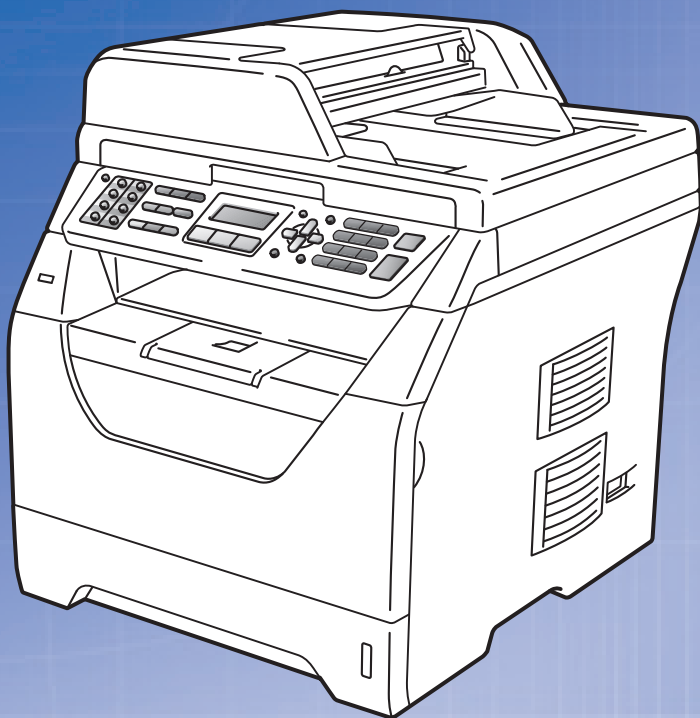
brother

ユーザーズガイド ネットワーク設定編

MFC-8380DN

困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、故障かな？と思ったときなどは、以下の手順で原因をお調べください。

1. ユーザーズガイド基本編 7 章「こんなときは」で調べる
2. サポート ブラザー 検索 ブラザーのサポートサイトにアクセスして、最新の情報を調べる http://solutions.brother.co.jp/

ブラザーマイポータル オンラインユーザー登録をお勧めします。 https://myportal.brother.co.jp/
ご登録いただくと、製品をより快適にご使用いただくための情報をいち早くお届けします。

Version A JPN

やりたいことがすぐ探せる！ やりたいこと目次 4P

目　次

やりたいこと目次

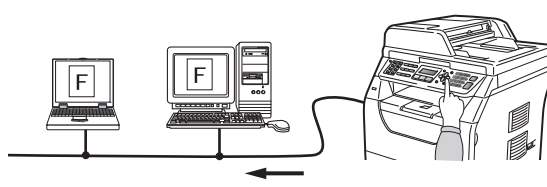
ネットワークプリンタとして使いたい。

本製品をネットワーク環境で使用します。ネットワーク上の複数のコンピュータから印刷できます。

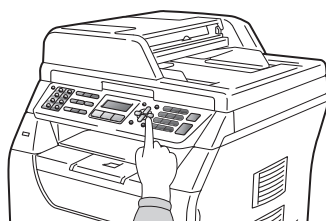
- Windows® の場合 P.49
- Macintosh の場合 P.67

ネットワークスキャナとして使いたい。

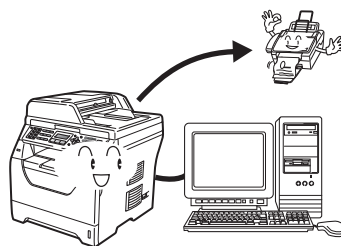
ネットワーク環境でスキャナとして使用できます。ネットワーク上の複数のコンピュータからスキャナを利用できます。

詳しくは P.54 P.69 を参照してください。

操作パネルを使ってネットワークの設定をしたい。

操作パネルのボタンを使用して、ネットワーク上で本製品を使用するための設定ができます。

詳しくは P.17 を参照してください。

ネットワーク PC ファクスを使う。

プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。

詳しくは P.58 P.71 を参照してください。

ウェブブラウザを使って本製品を管理する。

標準のウェブブラウザから本製品に HTTP を使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。

詳しくは P.34 を参照してください。

BRAdmin Light を使って本製品を設定する。

付属のソフトウェア BRAdmin Light 使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。

詳しくは P.42 を参照してください。

ネットワークリモートセットアップ

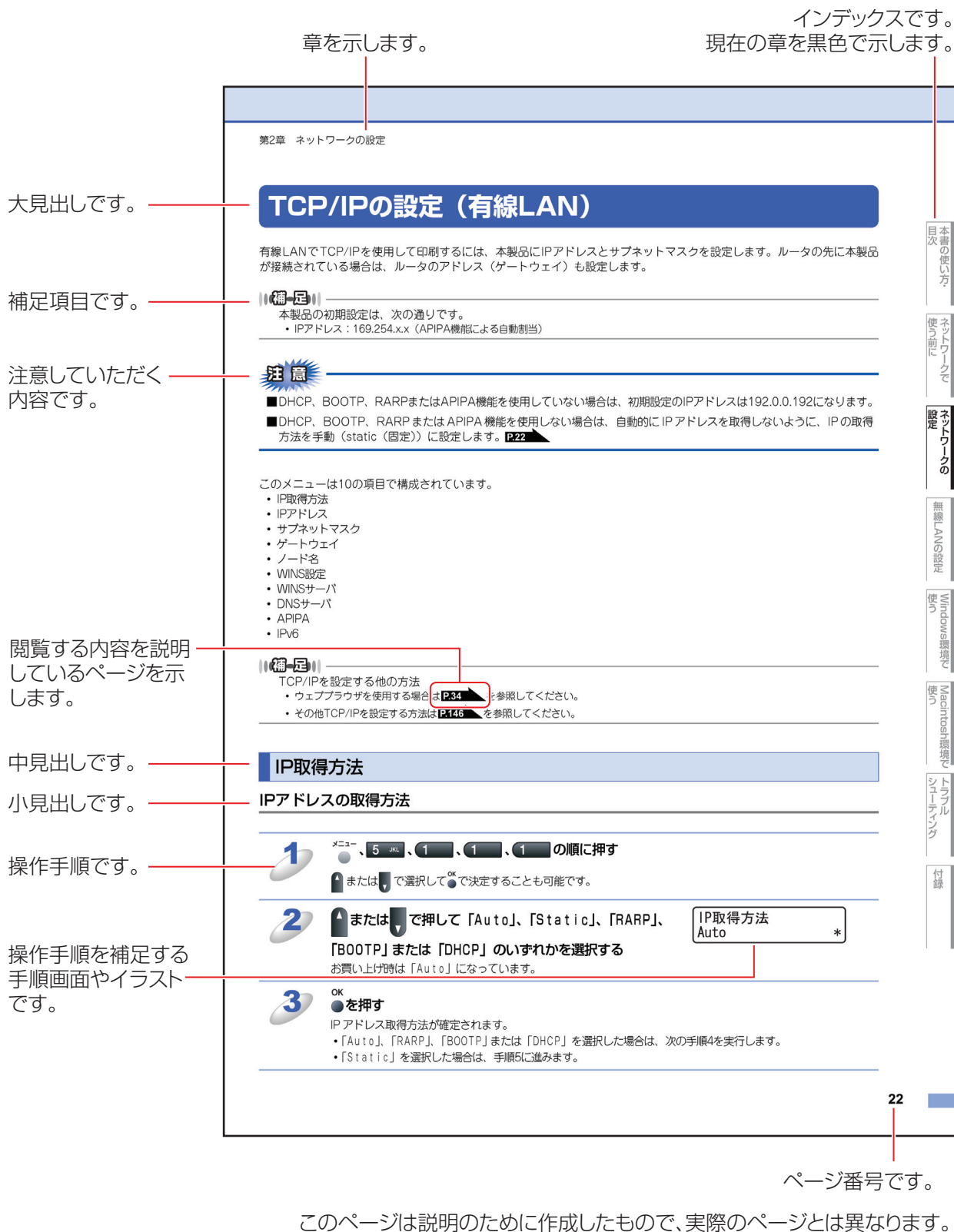
本製品にネットワーク経由でアクセスして、各種設定を変更できます。

詳しくは P.46 を参照してください。

VCCI規格

本製品は、クラスB 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーズガイドに従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本書の読みかた

このページは説明のために作成したもので、実際のページとは異なります。

本書の表記

本文中では、マークおよび商標について、以下のように表記しています。

マークについて

マーク	説明
注意	本製品をお使いになるにあたって、守っていただきたいことがらを説明しています。
補足	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。
P.XXX	本書内の参照先を記載しています。(XXXはページ)
「XXX」	かんたん設置ガイドの参照先を記載しています。(XXXはタイトル)
	画面で見るマニュアル(HTML形式)を参照しています。

商標について

brotherのロゴはブラザー工業株式会社の登録商標です。
Windows® 2000 Professionalの正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system です。(本文中ではWindows® 2000と表記しています。)
Windows® XPの正式名称は、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemおよびMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemです。
Windows® XP Professional x64の正式名称は、Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition operating systemです。
Windows Server®2003の正式名称は、Microsoft® Windows Server®2003 operating system です。
Windows Vista®の正式名称は、Microsoft® Windows Vista® operating system です。
本文中では、OS名称を略記しています。
Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Outlookは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国、日本および/またはその他の国における登録商標または商標です。
Apple、Macintosh、Mac OS、Safari、True Typeは、Apple Inc.の登録商標です。
ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の商標です。
Norton Internet Securityは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
UNIXは、The Open Groupの米国ならびにその他の国における登録商標です。
IBMは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

編集ならびに出版における通告

本書ならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。
ブラザー工業株式会社は、本書に掲載された仕様ならびに資料を予告なしに変更する権利を有します。また提示されている資料に依拠したため生じた損害(間接的損害を含む)に対しては、出版物に含まれる誤植その他の誤りを含め、一切の責任を負いません。

はじめに

概要

本製品のネットワークインターフェースを利用してLANまたはWANに接続し、ネットワーク上のコンピュータから本製品で原稿のファクス受信や印刷ができます。
本書は、本製品をネットワーク上で使用するために必要な設定方法について説明しています。

次の表では、各動作環境でサポートするネットワークの機能と接続について示しています。

オペレーティングシステム（OS）	Windows® 2000 Windows® XP Windows® XP Professional x64 Edition Windows Vista®	Windows Server® 2003 Windows Server® 2003 x64 Edition Windows Server® 2008	Mac OS X 10.3.9以降
10/100BASE-TX (TCP/IP)	○	○	○
印刷	○	○	○
BRAdmin Light	○	○	○
BRAdmin Professional※1	○	○	
BRPrint Auditor ソフトウェア※1※2	○	○	
ウェブブラウザ	○	○	○
インターネット印刷（IPP）	○	○	
スキャニング	○		○
PCファクス送信	○		○
PCファクス受信	○		
リモートセットアップ	○		○
ステータスモニタ	○		○
オートマチックドライバインストーラ	○	○	

※1 BRAdmin Professional、BRPrint Auditorは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/））よりダウンロードしてください。
※2 BRPrint Auditorソフトウェアを使用すると、USB経由でクライアントコンピュータに接続している本製品の情報をBRAdmin Professionalで取得することができます。

特長と機能

ネットワークプリンタ機能

本製品のネットワークインターフェースはTCP/IPに対応しています。TCP/IPの印刷プロトコルを使用して、ネットワーク上のコンピュータから直接印刷できます。

ネットワークスキャン機能

モノクロまたはカラーでスキャンした画像データを、ネットワーク上のコンピュータへ直接保存できます。

ネットワーク PCファクス送信機能

アプリケーションで作成したファイルを、ファクスとして送信できます。あらかじめ PC ファクスアドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクスの送信時に便利です。

ネットワーク PCファクス受信機能（Windows® のみ）

受信したファクスを、本製品とネットワーク接続しているコンピュータに送ります。コンピュータ上で内容を確認してから印刷できます。

管理ユーティリティ

● BRAdmin Light

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が可能です。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008、Mac OS X 10.3.9以降のコンピュータで利用できます。

Windows®をご使用の場合は、本製品に付属の かんたん設置ガイドを参照し、BRAdmin Lightをインストールしてください。

Macintosh をご使用の場合は、プリンタドライバをインストールすると、自動的に BRAdmin Light もインストールされます。すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、再度インストールする必要はありません。

詳しくは、「BRAdmin Lightで設定する」P.42 を参照してください。

● BRAdmin Professional（Windows® のみ）

BRAdmin Professionalは、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品を検索し、ウィンドウからデバイスの状態を閲覧できます。各デバイスは、状態によって色分けされます。

ネットワーク上の Windows® システムが稼動するコンピュータから本製品のネットワークファームウェアをアップデートしたり、ネットワーク設定を変更したりすることができます。また、ネットワーク上のブラザー製品の使用状況を記録し、HTML、CSV、TXT、SQL 形式でログデータをエクスポートすることができます。

クライアントコンピュータに接続した本製品を管理する場合は、クライアントコンピュータにBRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。BRAdmin Professional からUSBを経由してクライアントコンピュータに接続しているブラザー製品を管理することができます。詳しい情報とダウンロードについては、次のURLを参照してください。

サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）

● ウェブブラウザ

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

詳しくは、「ウェブブラウザで管理する」P.34 を参照してください。

● ネットワークリモートセットアップ機能

本製品にネットワーク経由でアクセスして各種設定ができます。

詳しくは、「ネットワークリモートセットアップで管理する」P.46 を参照してください。

● BRPrint Auditor ソフトウェア（Windows® のみ）

BRPrint Auditor ソフトウェアは、USB でローカルに接続された機器を BRAdmin Professional で管理できるようにします。USBを経由してクライアントコンピュータに接続された機器の情報を収集します。収集した情報はネットワーク上のBRAdmin Professional が稼動している他のコンピュータで表示することができます。これによって管理者がページカウントやトナー、ドラムの状態、ファームウェアのバージョンなどの項目を確認することができます。

ブラザーネットワーク管理アプリケーションへの通知に加え、使用状況やステータス情報をCSVまたはXML ファイル形式で、あらかじめ指定したE メールアドレスに直接E メールを送信することもできます。（SMTP メールサポートが必要です。）また、E メールによる警告やエラー状態の通知にも対応しています。

補足

- 情報を取得したい本製品と接続されているクライアントコンピュータに、BRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。
- BRAdmin Professional がインストールされているコンピュータにはインストールしないでください。

1章

ネットワークで使う前に

ネットワーク導入作業の流れ

すでに かんたん設置ガイドの手順にしたがってドライバのインストールをした場合は、ネットワークの設定は自動的に完了しています。
ここでは、手動でインストールする手順を説明しています。

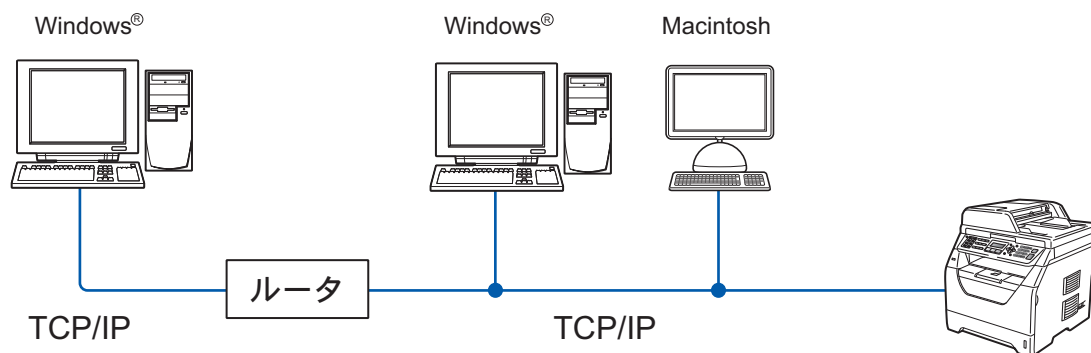
本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

ネットワークの接続方法を決める

接続方法は、各コンピュータから直接本製品と通信して印刷する方法（ピアツーピア）と、本製品に接続されているコンピュータを経由して印刷する方法（ネットワーク共有）があります。

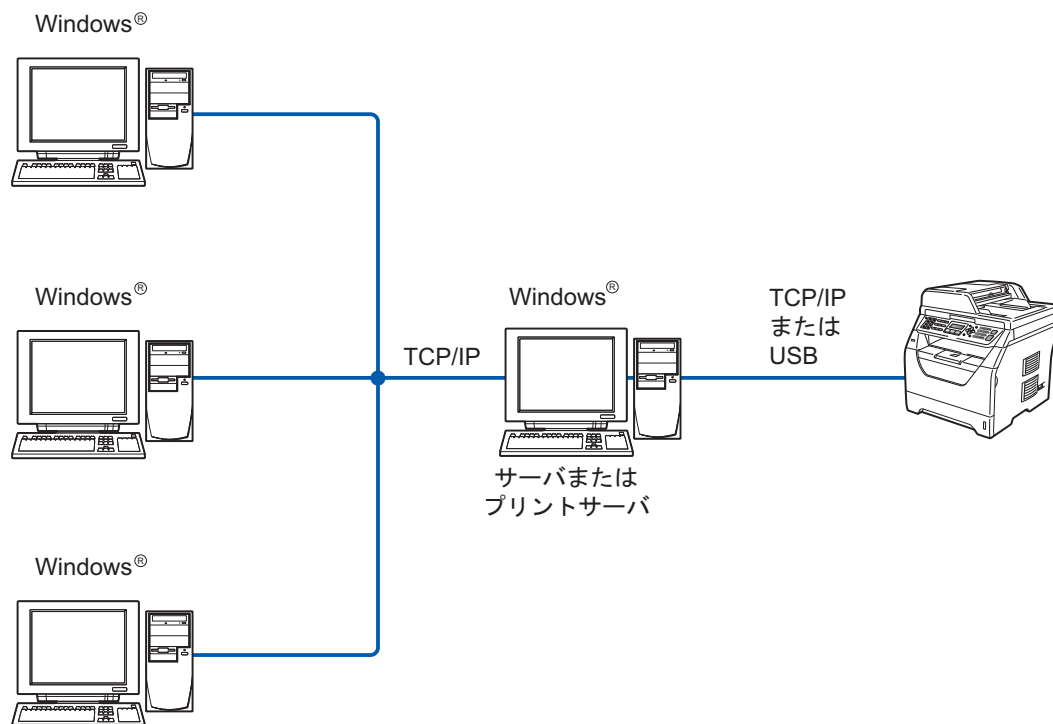
LAN

ピアツーピア接続

ピアツーピア接続では、各コンピュータが本製品と直接データを送受信します。ファイルの送受信を操作するサーバやプリントサーバなどは必要ありません。
各コンピュータにプリンタポートの設定をします。

- コンピュータ2、３台程度の小規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷よりも簡単に設定できるピアツーピア印刷をおすすめします。ネットワーク共有印刷については、P.12 を参照してください。
- 各コンピュータにTCP/IPプロトコルの設定を行います。
- 本製品にもIPアドレスを設定する必要があります。
- ルータがある場合、ルータの先からも利用可能です。（ゲートウェイの設定が必要）

補足
本書ではピアツーピア接続の設定方法について記載しています。

ネットワーク共有

ネットワーク共有では、各コンピュータが本製品とデータを送受信するには、サーバまたはプリントサーバを経由する必要があります。このサーバまたはプリントサーバで、すべての印刷作業を制御します。
本製品に直接接続されているコンピュータにのみプリンタポートを設定し、そのコンピュータを経由して他のコンピュータも本製品を共有できます。ただし、本製品に接続されているコンピュータの電源が入っていないと、他のコンピュータは本製品を使用できません。

- 大規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷環境をおすすめします。
- サーバまたはプリントサーバは、TCP/IP印刷プロトコルを使用してください。
- サーバまたはプリントサーバには、本製品に適したIPアドレスを設定する必要があります。
- サーバまたはプリントサーバをUSBインターフェースを経由して接続することもできます。
- サーバまたはプリントサーバは、プリンタドライバがインストール済みであることが必要です。
- Windows®のみ設定可能です。

補足

ネットワーク共有の設定方法については、Windows® オペレーティングシステムの共有プリンタに関する説明やヘルプを参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

ネットワーク接続に必要な環境を整える

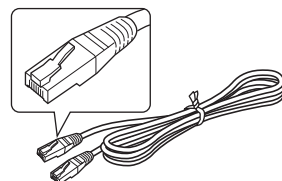
本製品をネットワーク上で使用するために、あらかじめ準備したり調べておくものについて説明します。

準備するもの

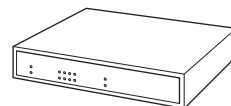
● LAN ケーブル

本製品とコンピュータ、またはハブなどの機器同士をつなぐケーブルです。LAN ケーブルにはいろいろな規格がありますが、現在一般的なのはカテゴリ5Eやカテゴリ6 という規格のケーブルです。5E のE は「Enhanced」の略で、「強化された」という意味を持っています。カテゴリ5Eやカテゴリ6 のケーブルはカテゴリ5 のケーブルよりもノイズに強い作りになっています。

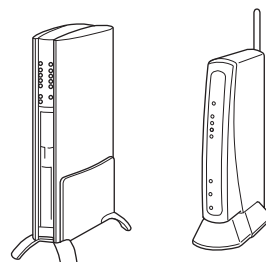
また、同じカテゴリのケーブルにも「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2 種類があります。ストレートケーブルは ADSL モデムとコンピュータの接続、コンピュータとハブの接続に使用されるケーブルで、ほとんどの場合はストレートケーブルで接続が可能です。クロスケーブルは2 台のコンピュータ同士を直接接続するときなどに使用されます。

ケーブルの長さは、機器間の距離に多少の余裕を持って購入してください。ただし、最大ケーブル長は10BASE-T/100BASE-TX とも100m となっているため、それ以下になるようにしてください。

● ハブ

複数台のコンピュータなどをネットワーク接続するときに必要な集線装置です。ハブには、大きく分けて「リピータハブ」と「スイッチングハブ」があります。リピータハブは主に10BASE-T で使用される集線装置です。スイッチングハブは主に、100BASE-TX や1000BASE-Tに使用される集線装置で、信号の流れを制御してコリジョンという信号の衝突が起きないようにする機能を持っています。

ハブに接続できる機器の数はハブのポート数によって決まります。お使いの環境から、何台の機器を接続するかを検討して購入してください。

● ルータまたはブロードバンドルータ

ADSL や CATV、光ファイバー（FTTH）などのインターネット網と、家庭・オフィスの LAN（内部ネットワーク）を中継する機器です。複数台のコンピュータから同時にインターネットに接続することができるようになります。ルータを使用すると、接続した各機器に自動でIPアドレスを割り当てるDHCP機能や、LAN内の独自のIPアドレス（プライベートIPアドレス）を持つ機器に、必要に応じてインターネット用のIPアドレス（グローバルIPアドレス）を割り当てるNAT機能が使えるようになります。

さらにインターネット接続に必要なプロトコルに対応していたり、インターネットからの不正なアクセスを防ぐセキュリティ機能なども持っています。

IPアドレスを決める

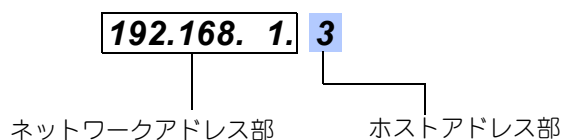
● IP アドレスとは

IP アドレスは、接続しているコンピュータの住所にあたるものです。TCP/IP ネットワークに接続するコンピュータなどの機器（ノード）には、必ずIP アドレスを割り当てる必要があります。

IP アドレスは、0 ～255 までの数字を「.（ピリオド）」で区切って「192.168.1.3」のように表現します。

ローカルネットワークでは、IP アドレスはサブネットマスクによって「ネットワークアドレス部」と「ホストアドレス部」に分割されています。サブネットマスクを設定することにより、ホストアドレス部だけでそのネットワーク全体を管理できます。IP アドレスとサブネットマスクは常にセットで管理してください。

192.168.　1.3	***IP アドレス***
255.255.255.0	**サブネットマスク**

と設定されている場合、

という意味を持っています。このうち利用可能なホストアドレス部の値は、予約された"0"と"255"を除いた1 ～254 の範囲で、「192.168.1.3」は、

192.168.1.1~254

の中のひとつのアドレスであることがわかります。このネットワークに本製品を追加する場合は、ホストアドレス部が重複しないようにしてください。

補足

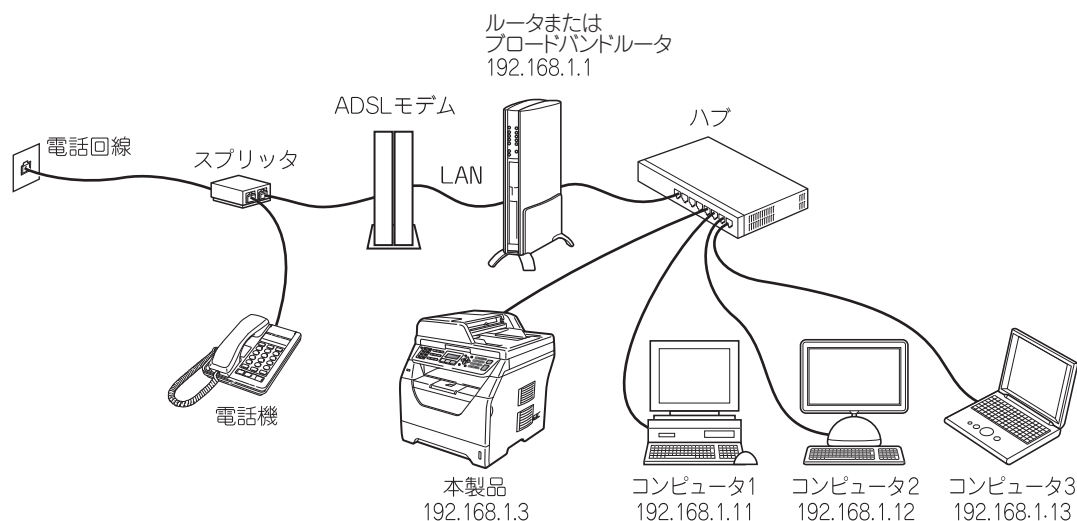
●予約されているアドレス
上記の例では、192.168.1.0 がネットワークアドレス、192.168.1.255 がブロードキャストアドレスとなり、本製品に割り当てることはできません。

● IP アドレスの決め方

本製品を同じネットワーク上に接続するためには、現在使用しているルータなどの初期値に合わせると簡単に設定、管理することができます。IP アドレスを手動で設定する場合は以下のように設定します。

ルータの LAN 側 IP アドレスが「192.168.1.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」である場合、接続する本製品やコンピュータにネットワークアドレス部は同じ値を設定し、ホストアドレス部にはそれぞれ異なる値を割り当てます。ここでは「2～254」の範囲で設定します。以下の例を参考に、接続する機器のIP アドレスを設定してください。

例）

機器名(ノード)	IPアドレス	サブネットマスク
ルータまたはブロードバンドルータ	192.168.1. 1	255.255.255.0
本製品	192.168.1. 3	255.255.255.0
コンピュータ1	192.168.1.11	255.255.255.0
コンピュータ2	192.168.1.12	255.255.255.0
コンピュータ3	192.168.1.13	255.255.255.0

補足

●ネットワーク管理者がいるときは
事務所などで多くの機器をネットワーク接続している場合は、ネットワークを管理している担当者に使用できるIP アドレスなどを問い合わせてください。数値を適当に設定すると、ネットワーク接続できないなどトラブルの原因になります。

●ネットワーク内にルータまたはブロードバンドルータがあるときは
ルータにもIPアドレスが割り当てられています。そのIPアドレスを本製品またはコンピュータに設定しないでください。ルータのIPアドレスはルータまたはブロードバンドルータの取扱説明書を確認するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

●DHCP環境でお使いの場合
ルータまたはブロードバンドルータ以外にDHCPサーバが設置されているときは、ルータまたはブロードバンドルータのDHCPサーバ機能を無効にするか、本製品のIPアドレス取得方法を「Static」にしてください。P.21
ルータについては、かんたん設置ガイドを参照してください。

2章

ネットワークの設定

概要

ネットワーク環境で本製品を使用する前に、TCP/IP の設定をする必要があります。
この章では、TCP/IP プロトコルを使用したネットワーク印刷をするために必要な基本手順について説明します。

> 本製品をネットワークに接続するには、付属のCD-ROM 内のブラザーインストーラを使用することをおすすめします。かんたん設置ガイドの手順にしたがってプリンタドライバのインストールを進めると、簡単に本製品をネットワークに接続することができます。

ネットワークを設定するには、次の方法があります。

● 操作パネルを使用する

本製品の操作パネルを使用して、ネットワーク設定のリセット、プリンタ設定一覧の印刷、TCP/IP の設定ができます。詳しくは、P.18 を参照してください。

● BRAdmin Light を使用する

BRAdmin Light は、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。
ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定ができます。詳しくはP.42 を参照してください。

● BRAdmin Professional を使用する（Windows® のみ）

BRAdmin Professional は、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼動するコンピュータからネットワーク上のブラザー製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。詳しくはP.79 を参照してください。BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/ ）よりダウンロードしてください。

● ウェブブラウザを使用する

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

詳しくはP.34 を参照してください。

● その他の設定方法を使用する

他の方法を用いて、本製品を設定することができます。詳しくはP.46 を参照してください。

操作パネルで設定をする

操作パネルにある各種ボタンと液晶ディスプレイ（LCD）を使用して、ネットワークを設定する方法について説明します。本製品の操作パネルのボタンを利用することで、コンピュータから操作しなくてもネットワークの各設定項目を修正できます。

メニュー、7 PQRS の順に押します。

```
ネットワーク
1.TCP/IP設定
```

このようにネットワークのメインメニューへ入ることができます。この章ではネットワークに関する下記の設定について説明しています。

補足

一度ネットワーク上で有効な IP アドレスを本製品に割り当てた後は、お使いのウェブブラウザからネットワークを通じてすべての設定項目を変更可能です。また、本製品に付属のCD-ROM内に収録されているBRAdmin Lightを、ご使用いただくことで同様に設定が可能です。

操作パネルから文字を入力する

ネットワーク設定で必要なIPアドレスやノード名などは、ダイヤルボタンを使用して入力できます。
ネットワーク設定の関連機能で入力できる文字の一覧は下表にまとめています。
ダイヤルボタンを表にある回数押すことで、そのボタンに割り当てられた文字を入力することができます。[#] には記号が割り当てられています。

● 0 〜 9 WXYZ で文字または記号を入力する

ダイヤルボタン文字対応表

ボタン ＼ 回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	@	.	/	1													
2	a	b	c	A	B	C	2										
3	d	e	f	D	E	F	3										
4	g	h	i	G	H	I	4										
5	j	k	l	J	K	L	5										
6	m	n	o	M	N	O	6										
7	p	q	r	s	P	Q	R	S	7								
8	t	u	v	T	U	V	8										
9	w	x	y	z	W	X	Y	Z	9								
0	0																

● 記号 # で記号を入力する

<table>
<tr><th>回数</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th></tr>
<tr><td></td><td>.</td><td>@</td><td>-</td><td>_</td><td>'</td><td>(スペース)</td><td>:</td><td>;</td><td><</td><td>=</td><td>></td><td>?</td><td>[</td><td>]</td><td>^</td><td>!</td><td>"</td></tr>
<tr><th>回数</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th><th>30</th><th>31</th><th>32</th><th>33</th><th>34</th></tr>
<tr><td></td><td>#</td><td>$</td><td>%</td><td>&</td><td>(</td><td>)</td><td>*</td><td>+</td><td>,</td><td>/</td><td>¥</td><td>˜</td><td>`</td><td>|</td><td>{</td><td>}</td><td>·</td></tr>
</table>

入力時の画面には、一覧の文字のうち設定する機能で利用できる文字のみ表示され、例えばIPアドレスの設定画面では数字のみが表示されます。
電話帳機能ではカナ文字も入力できます。また、パソコンからリモートセットアップ機能を利用すると、名前を漢字で登録することもできます。詳しくは、画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

- カーソルを移動する
  ◀または▶をお使いください。

- 入力した文字を修正する
  入力を間違えたときは、◀または▶を使って修正する文字にカーソルを移動し、クリア/バック を押して削除後、正しい文字を入力し直します。途中の文字を入力し忘れたときは、間違えた箇所までカーソルを移動して入力し直してください。

補足

入力できる文字の種類は、設定項目により異なります。

TCP/IPの設定

TCP/IPを使用して印刷するには、本製品にIPアドレスとサブネットマスクを設定します。ルータの先に本製品が接続されている場合は、ルータのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

補足

本製品の初期設定は、次の通りです。
- IPアドレス：169.254.x.x（APIPA機能による自動割当）

DHCP、BOOTP、RARP または APIPA 機能を使用しない場合は、自動的に IP アドレスを取得しないように、IP の取得方法をStatic（手動）に設定します。P.21

このメニューは10の項目で構成されています。

- IP取得方法
- IPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ
- ノード名
- WINS設定
- WINSサーバ
- DNSサーバ
- APIPA
- IPv6

補足

TCP/IPを設定する他の方法
- ウェブブラウザを使用する場合はP.34を参照してください。
- その他TCP/IPを設定する方法はP.111を参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

IP取得方法

メニュー、7 PQRS、1、1 の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押して「Auto」、「Static」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」のいずれかを選択する

```
IP取得方法
Auto                *
```

お買い上げ時は「Auto」になっています。

OKを押す

IP アドレス取得方法が確定されます。

- 「Auto」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」を選択した場合は、次の手順4を実行します。
- 「Static」を選択した場合は、手順5に進みます。

IP アドレスの取得を試みる回数を設定して、OKを押す

お買い上げ時の設定は「00003」です。IP アドレスの取得に失敗する場合は、数値を大きくします。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

補足

IP取得方法を「Auto」に設定すると、「DHCP」、「BOOTP」、「RARP」の順にネットワーク内のIPアドレス配布サーバを探して、IPアドレスを取得します。これらのサーバが見つからなかった場合は、「APIPA」機能により、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

IPアドレス

本製品の現在のIPアドレスが表示されます。IPアドレスを変更する場合は、IP取得方法をStatic（手動）に指定してください。設定するIPアドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。
Static以外のIP取得方法が選ばれている場合は、DHCP、RARPまたはBOOTPのプロトコルを使用してIPアドレスを自動的に取得します。

メニュー、7 PQRS、1、2 ABC の順に押す

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

IP アドレスを入力する

右記は例です。
設定済みの場合は、「変更しますか　1. はい　2. いいえ」と表示されます。
そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

```
IP ｱﾄﾞﾚｽ
192.168.001.003
```

OK を押す

IP アドレスが登録されます。

停止/終了 を押す

設定メニューを終了します。

サブネットマスク

本製品の現在のサブネットマスクが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合は、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

メニュー、7 PQRS、1、3 DEF の順に押す

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

サブネットマスクを入力する

右記は例です。
設定済みの場合は、「変更しますか　1. はい　2. いいえ」と表示されます。
そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

```
ｻﾌﾞﾈｯﾄ ﾏｽｸ
255.255.255.0
```

OK を押す

サブネットマスクが登録されます。

停止/終了 を押す

設定メニューを終了します。

ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイアドレスが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイやルータを使用しない場合はお買い上げ時の設定(000.000.000.000)にしておいてください。アドレスが不明な場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

メニュー、7 PQRS、1、4 GHIの順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

ゲートウェイアドレスを入力する

右記は例です。
設定済みの場合は、「変更しますか　1. はい　2. いいえ」と表示されます。
そのときは1を押します。2 ABCを押すと、設定画面へ戻ります。

```
ｹﾞｰﾄｳｪｲ
192.168.001.001
```

OKを押す

ゲートウェイアドレスが登録されます。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

ノード名（NetBIOS名）

ノード名をネットワークに登録するために使用します（WINSサーバに登録されているNetBIOS名になります）。
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxxx” です。(「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。)

メニュー、7 PQRS、1、5 JKLの順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

1を押す

2 ABCで設定メニューへ戻ります。

```
BRNxxxxxxxxxxxx
変更しますか 1.はい 2.いいえ
```

ノード名を入力する

```
ﾉｰﾄﾞ名
BRNxxxxxxxxxxxx
```

補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくはP.19を参照してください。
ノード名は、最大32文字まで入力できます。

OKを押す

ノード名が登録されます。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

WINS設定

この項目で本製品がWINSをどのように解決するかを設定します。

Auto

DHCPサーバから自動的にプライマリー、セカンダリーのWINSサーバアドレスを取得します。「IP取得方法」が「Auto」に設定されている必要があります。P.21

Static

手動でWINSサーバアドレスを設定します。

の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押して「Auto」、「Static」のどちらかを選択する

```
WINS設定
Auto                  *
```

お買い上げ時は「Auto」になっています。

OK を押す

WINS 設定が登録されます。

停止/終了 を押す

設定メニューを終了します。

WINSサーバ

WINSサーバの設定をします。

● プライマリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。
0以外の値が設定されている場合、本製品はプライマリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。

● セカンダリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。セカンダリWINSサーバはプライマリWINSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからないときに機能します。
0以外の値が設定されている場合、本製品はセカンダリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。
ネットワーク内にセカンダリのWINSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

メニュー、7、1、7の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押して「プライマリ」または「セカンダリ」のWINS サーバを選択する

```
WINS ｻｰﾊﾞ
ﾌﾟﾗｲﾏﾘ
```

OKを押す

設定済みの場合は、「変更しますか　1. はい　2. いいえ」と表示されます。
そのときは1を押します。2を押すと、設定画面へ戻ります。

WINS サーバのアドレスを入力する

```
WINS ｻｰﾊﾞ
000.000.000.000
```

OKを押す

WINS サーバのアドレスが登録されます。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

DNSサーバ

DNS（ドメインネームシステム)サーバの設定をします。

● プライマリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリDNS（Domain Name System）サーバのアドレスを指定します。

● セカンダリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリDNSサーバのアドレスを指定します。セカンダリDNSサーバはプライマリDNSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからない場合に機能します。

ネットワークのトラフィックが大きい環境で使用する場合に設定してください。

ネットワーク内にセカンダリのDNSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

メニュー、7 PQRS、1、8 TUV の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押して「プライマリ」または「セカンダリ」のDNS サーバを選択する

DNS ｻｰﾊﾞ
ﾌﾟﾗｲﾏﾘ

OKを押す

設定済みの場合は、「変更しますか　1. はい　2. いいえ」と表示されます。
そのときは1を押します。2 ABCを押すと、設定画面へ戻ります。

DNS サーバのアドレスを入力する

DNS ｻｰﾊﾞ
000.000.000.000

OKを押す

DNS サーバのアドレスが登録されます。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

APIPA

APIPAの設定を「オン」にすると、169.254.1.0から169.254.254.255の範囲でIPアドレスが自動的に割り当てられます。「オフ」に設定した場合は、IPアドレスを手動で設定してください。

の順に押す

択する

お買い上げ時は「オン」に設定されています。

OK **を押す**

APIPA の設定が登録されます。

停止/終了 **を押す**

設定メニューを終了します。

IPv6

本製品は次世代インターネットプロトコルIPv6に対応しています。IPv6プロトコルを使用する場合は、「オン」に設定してください。お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。IPv6 プロトコルの詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/））をご覧ください。

または で選択して OK で決定することも可能です。

または を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する

IPv6
オフ　*

OK **を押す**

IPv6 の設定が登録されます。

停止/終了 **を押す**

設定メニューを終了します。

本製品の電源を入れ直す

設定が変更されます。

イーサネットの設定

この設定の変更を有効にするためには、本製品を再起動する必要があります。

誤った設定をした場合、本製品にアクセスできなくなることがあります。

メニュー、7 PQRS、2 ABC の順に押す

イーサネット
Auto　　　　　　*

選べるモードは以下のとおりです。
（お買い上げ時は Auto に設定されています）
- Auto
- 100B-FD
- 100B-HD
- 10B-FD
- 10B-HD

OK を押す

イーサネットの設定が登録されます。

停止/終了 を押す

設定メニューを終了します。

本製品の電源を入れ直す

設定が変更されます。

● Ethernet リンクモードについて

Auto：

100BASE-TX（全二重/半二重）、10BASE-T（全二重/半二重）モードを自動的に選択します。

100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD：

それぞれのリンクモードに固定されます。
- 100B-FD　：100BASE-TX Full Duplex
- 100B-HD　：100BASE-TX Half Duplex
- 10B-FD　：10BASE-T Full Duplex
- 10B-HD　：10BASE-T Half Duplex

スキャン to FTPの初期設定を変更する

本製品のスキャン機能のうち、スキャン to FTP、スキャン to ネットワークファイルでは、解像度とファイル形式の初期設定を以下の手順で変更できます。

メニュー、7 PQRS、3 DEF の順に押す

▲または▼を押してカラー / グレー / モノクロと解像度を選択する

下記の中から選択してください。

- カラー　100　dpi
- カラー　200　dpi
- カラー　300　dpi
- カラー　600　dpi
- グレー　100　dpi
- グレー　200　dpi
- グレー　300　dpi
- モノクロ　200　dpi
- モノクロ　200×100dpi

OK を押す

▲または▼を押して画像の形式を選択する

- カラー /グレーを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[JPEG]、[XPS] を選択できます。
- モノクロを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[TIFF] を選択できます。

OK を押す

停止/終了 を押す

目次　本書の使い方
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

スキャン to ネットワークファイルの初期設定を変更する

本製品のスキャン機能のうち、スキャン to FTP、スキャン to ネットワークファイルでは、解像度とファイル形式の初期設定を以下の手順で変更できます。

メニュー、7 PQRS、4 GHI の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押してカラー / グレー / モノクロと解像度を選択する

下記の中から選択してください。

- カラー　100　dpi
- カラー　200　dpi
- カラー　300　dpi
- カラー　600　dpi
- グレー　100　dpi
- グレー　200　dpi
- グレー　300　dpi
- モノクロ　200　dpi
- モノクロ　200×100dpi

OKを押す

▲または▼を押して画像の形式を選択する

- カラー /グレーを選択した場合は、［PDF］、［セキュリティ PDF］、［JPEG］、［XPS］を選択できます。
- モノクロを選択した場合は、［PDF］、［セキュリティ PDF］、［TIFF］を選択できます。

OKを押す

停止/終了を押す

タイムゾーンの設定

お住まいの国のタイムゾーンを設定します。ここで設定される値は、世界標準時間との時差になります。(例：日本UTC+9:00)
ここで設定したタイムゾーンは、インターネット経由で送信したドキュメントに使用されます。

補足

- UTC（協定世界時）
  GMT（グリニッジ標準時）とほぼ同じ時刻ですが、全世界で時刻を記録する際に使われる公式な世界標準時刻のことで、1972年1月1日より使用されています。
- お使いのウェブブラウザを使って設定することもできます。詳しくは P.34 を参照してください。

メニュー、7 PQRS、5 JKL の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

▲または▼を押してタイムゾーンを設定する

```
ﾀｲﾑ ｿﾞｰﾝ
UTC+09:00           *
```

▲または▼を押すごとに30分ずつタイムゾーンが増減します。

OKを押す

タイムゾーンが登録されます。

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

ネットワーク設定のリセット

現在のネットワーク設定をすべてお買い上げ時の設定に初期化できます。リセットすると本製品は自動的に再起動します。

補足

この設定では、IPアドレスやメールアドレスなど、すでに設定しているネットワークのすべての情報を初期化します。

メニュー、7 PQRS、0 の順に押す

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

1 を押す

2 ABC を押すと、設定メニューに戻ります。

ﾈｯﾄﾜｰｸ設定ﾘｾｯﾄ
1. 決定　2. ｷｬﾝｾﾙ

1 を押す

- 数秒後に本製品が再起動します。
- 2 ABC を押すと、設定メニューに戻ります。

再起動しますか?
1. はい　2. いいえ

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

ネットワーク設定リストの出力

現在のネットワークに関する設定内容を印刷できます。

メニュー、6 MNO、7 PQRS を押す

▲または▼で「ﾈｯﾄﾜｰｸ設定ﾘｽﾄ」を選択して OK で決定することも可能です。

スタート を押す

ﾈｯﾄﾜｰｸ設定ﾘｽﾄ
ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝを押してください

ネットワーク設定リストが印刷されます。

ウェブブラウザで管理する

概要

標準のウェブブラウザで、HTTP（Hyper Text Transfer Protocol）を使用して、ネットワークに接続されているブラザー製品を管理することができます。
Windows®の場合はMicrosoft® Internet Explorer® 6.0以降またはFirefox 1.0以降、Macintoshの場合はSafari 1.3以降を推奨します。

補足
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびCookieを有効にして使用してください。
- 他のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP 1.0およびHTTP 1.1と互換性があることを確認してください。

ウェブブラウザを使用して、次の情報を本製品から取得することができます。
- 本製品のステータス、設定、メンテナンスに関する詳細情報の取得
- 本製品とプリントサーバのソフトウェアバージョン情報の取得
- 本製品の設定変更
- ネットワークの設定変更
- テストページ、プリンタ設定一覧、ネットワーク設定リストの印刷
- ネットワーク設定リセット

● 条件

本製品とコンピュータのTCP/IP設定が完了していること。

● 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを起動し、本製品のIPアドレスまたはノード名（NetBIOS名）を入力します。

ウェブブラウザを使用して本製品の設定を変更する

ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に、http://ip_address/ を入力する

（[ip_address] はご使用になる本製品の IP アドレス）

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
　ウェブブラウザに http://192.168.1.3 と入力します。

- 本製品のIPアドレスの確認は、P.22 を参照してください。
- Windows®のドメイン/ワークグループ環境の場合は、ノード名（NetBIOS名）を使用することもできます。
- DNSを使用している場合は、DNS名を入力します。

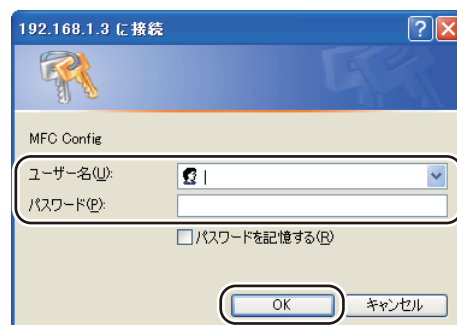
目的の管理機能へのリンクをクリックする

ネットワークの設定を表示または変更する場合は、［ネットワーク設定］をクリックします。

［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

必要に応じて設定を変更する

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

補足

●プロトコル設定を変更した場合は、変更内容を有効にするため［OK］をクリックして、本製品を再起動してください。

●hosts ファイルを編集した場合や、または DNS サーバを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、ネットワーク設定リストで確認できます。ネットワーク設定リストを印刷するには、P.33 を参照してください。NetBIOS名は、ノード名の最初の15文字が割り当てられます。お買い上げ時のNetBIOS名は、“BRNxxxxxxxxxxxx”です。(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。)

●Mac OS X ユーザーの方は、ステータスモニタの本製品アイコンをクリックしてウェブブラウザを起動することで、本製品にアクセスすることができます。
詳しくは画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

パスワードについて

ウェブブラウザでは、2段階のパスワードによる管理が可能です。一般ユーザーで管理できるのは「基本設定」「ファクス設定」「コピー設定」です。

一般ユーザー

ユーザー名：user
パスワード：access

ネットワーク管理者用のパスワード管理では、全ての機能を管理できます。

管理者

ユーザー名：admin
パスワード：access

ウェブブラウザで【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】の設定を変更する

本製品のウェブページから［管理者設定］-［FTP/ネットワークファイル　スキャン設定］をクリックすると以下の画面が表示され、【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】の設定を変更することができます。
また、15文字以内で2種類のオリジナルファイル名を登録することができます。

ウェブブラウザで【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】のプロファイルを設定する

本製品のウェブページから［管理者設定］-［FTP/ネットワークファイル　スキャンプロファイル］をクリックすると以下の画面が表示され、【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】のプロファイルを設定することができます。

プロファイル名をクリックすると以下の画面が表示されます。必要に応じて設定してください。

【スキャン to FTP】の場合

brother
MFC-8380DN

管理者設定

パスワードの設定 / Web表示
FTP/ネットワークファイル スキャンプロファイル / FTP/ネットワークファイル スキャン設定 / セキュリティ機能ロック
プロファイル名 1 / プロファイル名 2 / プロファイル名 3 / プロファイル名 4 / プロファイル名 5
プロファイル名 6 / プロファイル名 7 / プロファイル名 8 / プロファイル名 9 / プロファイル名 10

プロファイル名 1(FTP)

プロファイル名
サーバ アドレス
ユーザ名
パスワード
新しいパスワードの確認
転送先フォルダ
ファイル名　BRN001BA90009C9
画質　カラー 100dpi
ファイルタイプ　PDF
パッシブモード　オフ　オン
ポート番号　21

取消　OK

【スキャン to ネットワークファイル】の場合

brother
MFC-8380DN

管理者設定

パスワードの設定 / Web表示
FTP/ネットワークファイル スキャンプロファイル / FTP/ネットワークファイル スキャン設定 / セキュリティ機能ロック
プロファイル名 1 / プロファイル名 2 / プロファイル名 3 / プロファイル名 4 / プロファイル名 5
プロファイル名 6 / プロファイル名 7 / プロファイル名 8 / プロファイル名 9 / プロファイル名 10

プロファイル名 6(ネットワーク)

プロファイル名
サーバ アドレス
転送先フォルダ
ファイル名　BRN001BA90009C9
画質　カラー 100dpi
ファイルタイプ　PDF
接続時にパスワード認証を行う　オフ　オン
接続パスワード　0000

認証設定

認証方法　自動　Kerberos　NTLMv2
ユーザ名
ドメイン名を指定するには、ユーザ名欄に下記形式で入力してください。
ユーザ名@ドメイン名
ドメイン名\ユーザ名
パスワード
新しいパスワードの確認
Kerberosサーバアドレス

取消　OK

セキュリティ機能ロック2.0

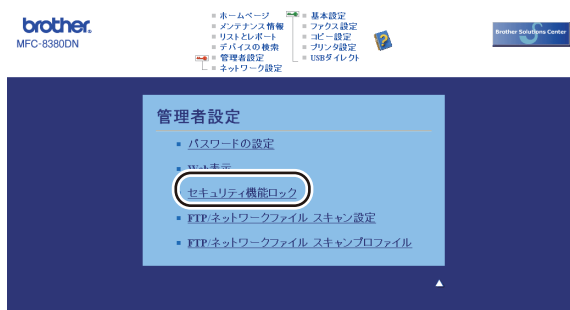
ウェブブラウザを使用してユーザーの名前（ID）とパスワードを登録することで、ユーザーごとに利用できる以下の機能をそれぞれ制限することができます。

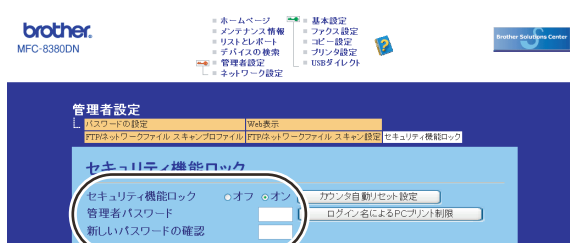
- PCプリント
- USBダイレクトプリント
- コピー
- 印刷枚数の制限
- ファクス送信
- ファクス受信
- スキャン

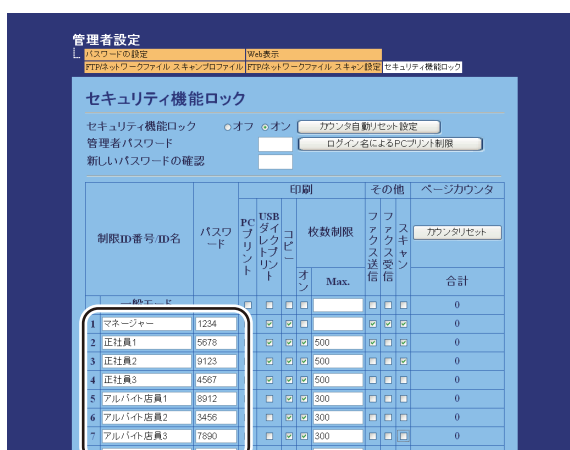
受信したファクスを印刷せずにメモリーに蓄積し、管理者やマネージャーだけが印刷できるようようにすることで、見積書や財務情報などの管理も安心です。また、印刷枚数やコピーの利用を制限することで不正な出力を防止し、経費削減にもつながります。

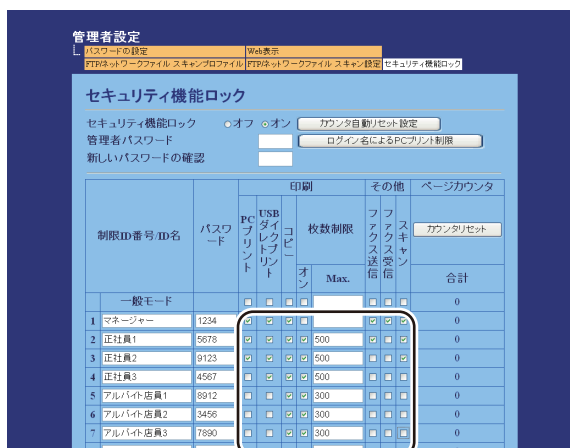
セキュリティ機能ロック2.0を設定する

基本設定

本製品のウェブページから［管理者設定］-［セキュリティ機能ロック］をクリックする

［セキュリティ機能ロック］から［オン］を選択し、［管理者パスワード］を入力する

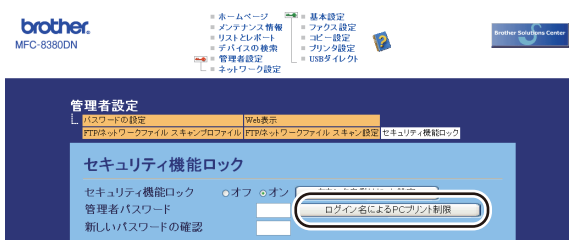
- パスワードは4桁の数字で入力します。

［制限ID番号/ID名］と［パスワード］を入力する

- 15文字まで登録できます。
- 同じユーザー名は登録できません。
- パスワードは4桁の数字で入力します。

制限したい機能のチェックをはずす

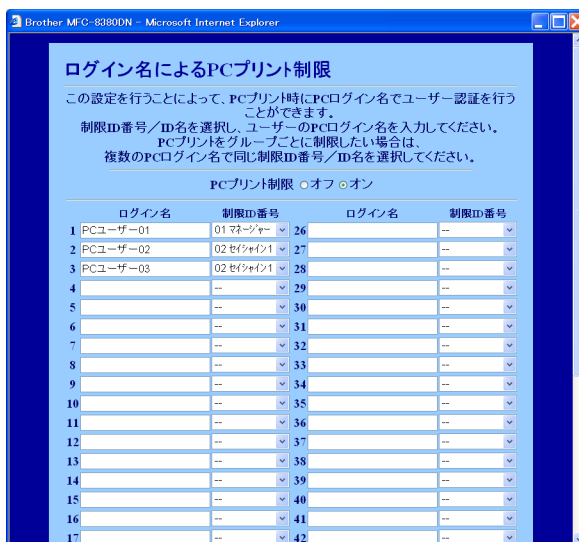
印刷枚数を制限する場合は、［枚数制限　オン］をチェックし最大印刷可能枚数を入力してください。

［OK］をクリックして、ウェブブラウザを閉じる

コンピュータのログイン名でプリントを制限する

コンピュータへログインするために使用しているユーザー名で、プリント制限の認証を行うことができます。

セキュリティ機能ロックの基本画面から［ログイン名による PC プリント制限］をクリックする

［ログイン名］を入力し、セキュリティ機能ロックで登録した［制限 ID 番号］を選択する

補足

一つの［制限ID番号］にグループとして複数の［ログイン名］を登録することも可能です。

［OK］をクリックして、ウェブブラウザを閉じる

その他の設定

①定期的にページカウンタをリセットするための設定をします。
②すべてのページカウンタを「0」に戻します。
③機能を制限するときにチェックボックスのチェックを外します。
④ページカウンタがリセットされる以前のログを表示します。
⑤制限ID番号/ID名と現在のページカウンタの情報をエクスポートします。

Eメール通達機能について

E メール通達機能では、あらかじめ登録しておいたネットワーク管理者に、本製品の状態やトラブルが起きたときにその内容をEメールでお知らせすることができます。
例えば、トナー切れや紙づまりが起きたときなどに、登録しておいたメールアドレスにお知らせメールが届きます。

E メール通達機能を利用するには、メールアドレスと SMTP サーバの設定が必要です。使用している環境に応じて設定してください。

ユーザー認証を必要とする SMTP サーバを経由して、E メール通達機能を使用するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスするのを防ぐものです。ウェブブラウザおよびBRAdmin Professionalを使用して設定することができます。

補足

POP3/SMTP認証の設定をEメールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

BRAdmin Lightで設定する

BRAdmin Lightのインストール

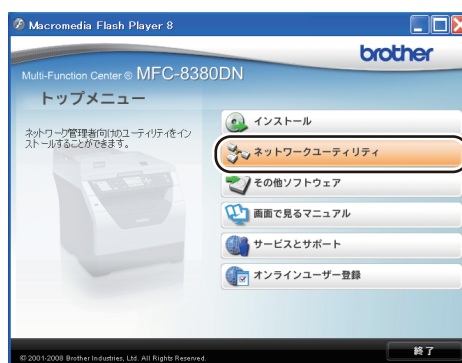
BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されたブラザー製品を設定するユーティリティソフトです。
ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。
Mac OS Xを使用している場合は、ドライバをインストールするとBRAdmin Lightも同時にインストールされます。

補足

- TCP/IP ネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IP アドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。
- BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008 および Mac OS X 10.3.9 以降に対応しています。
- さらに高度なプリンタ管理を必要とする場合は、BRAdmin Professional （Windows® 版のみ）をご利用ください。BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/））よりダウンロードしてご使用ください。

BRAdmin Light（Windows®版）をインストールする

付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

「ネットワークユーティリティ」をクリックする

「BRAdmin Light」をクリックし、
画面の指示にしたがってインストールする

補足

アンチウィルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Lightの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的に無効にしてください。

ネットワークインターフェースの設定

TCP/IPを利用して印刷するには、本製品にIPアドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定します。

補足

ゲートウェイの設定
ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つIPアドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータのIPアドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

IPアドレスは以下の方法で割り当てます。

- IPアドレス配布サーバを利用している場合
  本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。

- IPアドレス配布サーバを利用していない場合
  DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境のIP アドレスの設定規則に適さない場合は、BRAdmin Light やBRAdmin Professionalを使用して本製品の IP アドレスを設定してください。

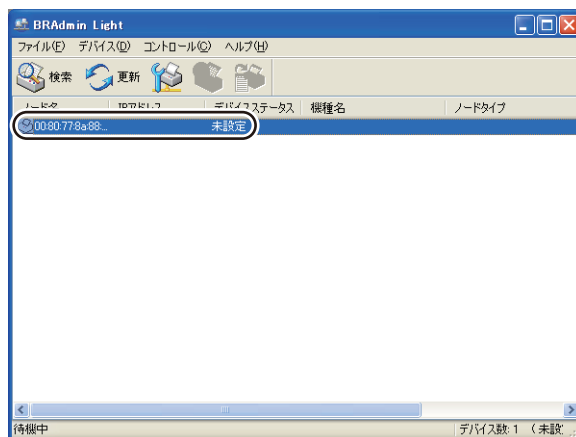
補足

お買い上げ時のIPアドレス
IPアドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下のとおりです。
- IPアドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA機能による自動割当）

現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくはP.33を参照してください。

Windows®版で設定する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順に選択する

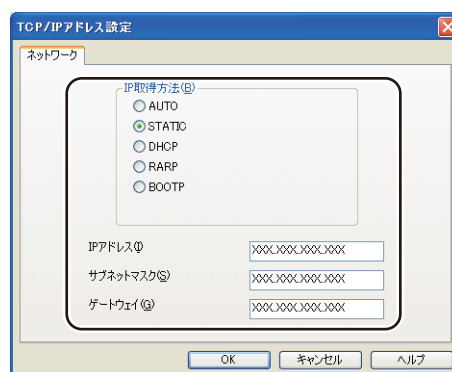
新しいデバイスを自動的に検索します。

［デバイスステータス］が「未設定」となっている本製品をダブルクリックする

注意

ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合やIPアドレスの自動設定機能によりIPアドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。
その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをおすすめします。

補足

現在設定されているノード名やMACアドレスを調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくはP.33を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxxx”です。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）
「未設定」と表示されていないデバイスに設定するときに、パスワードを設定している場合は、パスワードの入力が必要です。（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

「IP 取得方法」から［STATIC］を選択し、［IP アドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力する

［OK］をクリックする

本製品に IP アドレスが正しく設定されると、ウィンドウにノード名およびプリンタ名が表示されます。

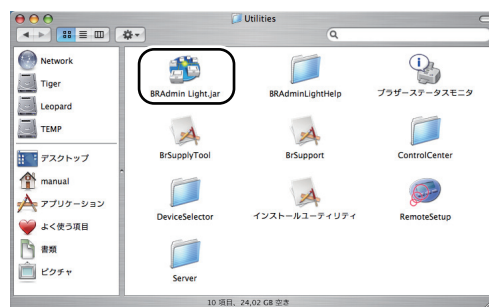
補足

BRAdmin Lightを使用せずにIPアドレスを設定するときは以下の方法でもIPアドレスの設定ができます。
- 操作パネルで設定する場合はP.21を参照してください。
- DHCP、RARP、BOOTPを使用する場合はP.21 P.111を参照してください。

Macintosh版で設定する

BRAdmin Lightは、ドライバをインストールすると自動的にインストールされます。

デスクトップ上の［Macintosh HD］から、［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］－［BRAdmin Light.jar］の順に選択する

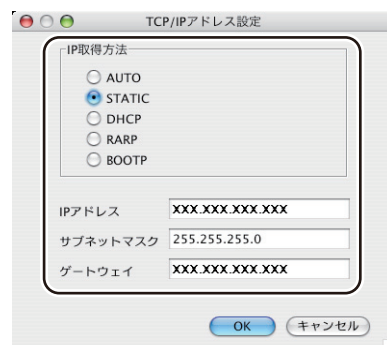
BRAdmin Light が起動し、新しいデバイスを自動的に検索します。

［デバイスステータス］が［未設定］となっている本製品をダブルクリックする

注意

ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合やIPアドレスの自動設定機能によりIPアドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。
その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをおすすめします。

補足

現在設定されているノード名やMACアドレスを調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。
詳しくは P.33 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxxx”です。（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

「IP 取得方法」から［STATIC］を選択し、［IP アドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力する

［OK］をクリックする

アドレス情報が本製品に保存されます。

ネットワークリモートセットアップで管理する

ネットワークリモートセットアップ機能とは、本製品の設定をネットワークに接続しているパソコンから変更したり、本製品の電話帳を編集したりできます。

Windows®で設定する（Windows Server® 2003/2008以外）

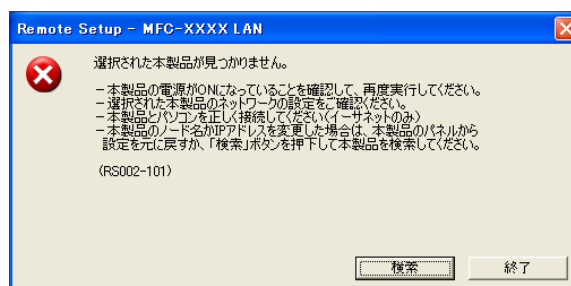
リモートセットアップを起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［MFC-8380DN LAN］－［リモートセットアップ］の順に選択する

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップのダイアログボックスが表示されます。
リモートセットアップの使い方、変更できる設定については、画面で見るマニュアル（HTML 形式）の「リモートセットアップ」を参照してください。

補足
本製品にパスワードを設定している場合は、ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

本製品との接続に失敗した場合

エラーメッセージの［検索］をクリックする

表示される機器の一覧から、設定を変更する機器を選択し、［OK］をクリックする

選択した機器への接続を開始します。
再度機器を検索する場合は、［検索］をクリックしてください。

補足
表示される一覧に、接続先の機器が表示されない場合
［手動設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで、接続先のIPアドレスまたはノード名を入力して設定してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

Macintoshで設定する

リモートセットアップを起動する

[Macintosh HD] − [ライブラリ] − [Printers] − [Brother] − [Utilities] から [Remote Setup] アイコンをダブルクリックする

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップの画面が表示されます。

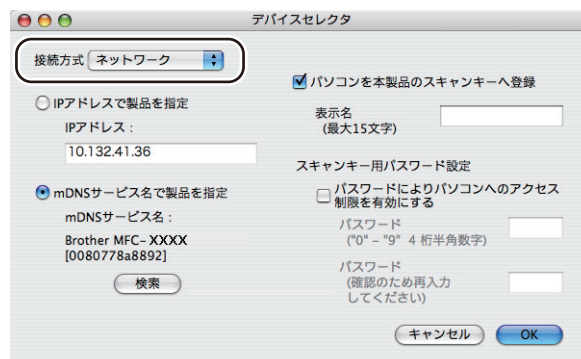
詳細な説明については画面で見るマニュアル（HTML 形式）の「リモートセットアップ」を参照してください。

補足

ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。
（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

本製品との接続に失敗した場合

[Macintosh HD] − [ライブラリ] − [Printers] − [Brother] − [Utilities] − [DeviceSelector] の [デバイスセレクタ] をダブルクリックする

接続方式から [ネットワーク] を選択する

[検索] をクリックする

表示される機器の一覧から、接続する機器を選択し、[OK] をクリックする

選択した機器への接続を開始します。

デバイスセレクタの設定を確認し、[OK] をクリックする

再度機器を検索する場合は、[検索] をクリックしてください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

3章

Windows®環境で使う

ネットワークプリンタとして使う

LPR（Standard TCP/IP）で印刷する

概要

TCP/IPプロトコルを使用して、本製品から直接印刷出力することができます。
ネットワークサーバなどは経由せずに印刷します。
プリンタドライバの詳しい使い方については、画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

● 条件

- コンピュータにLANボードが装備され、TCP/IPプロトコルがインストールされていること。
- 本製品にIPアドレス、サブネットマスクなどが設定されていること。
- コンピュータと本製品が、同一のネットワーク上にあること。

● 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. コンピュータに本製品の関連付けをします。P.50 を参照してください。

プリンタドライバのインストール (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003/2008)

すでにプリンタドライバがインストールされている場合はP.53を参照してください。

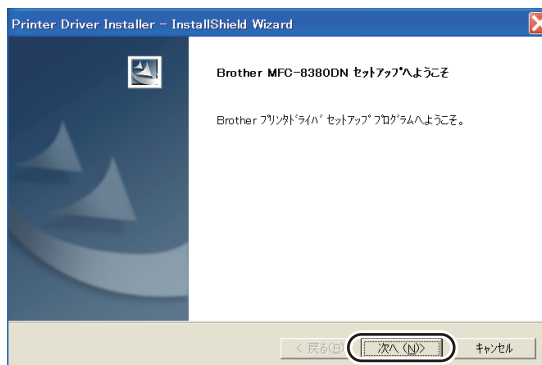
本製品に付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットする

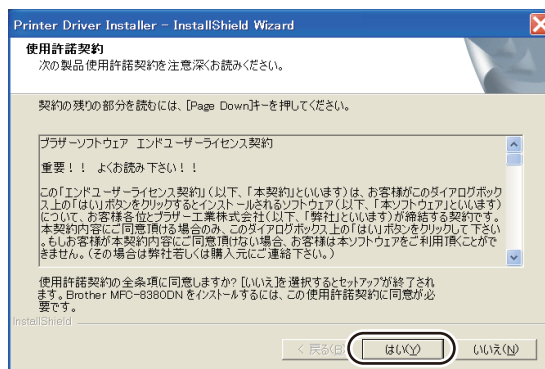
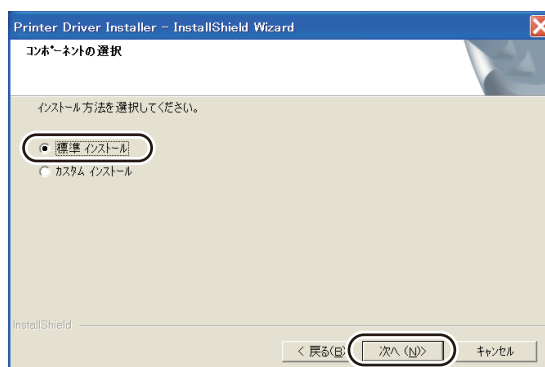
トップメニューが表示されます。

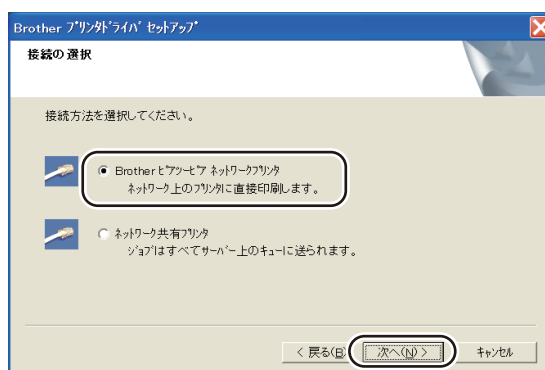
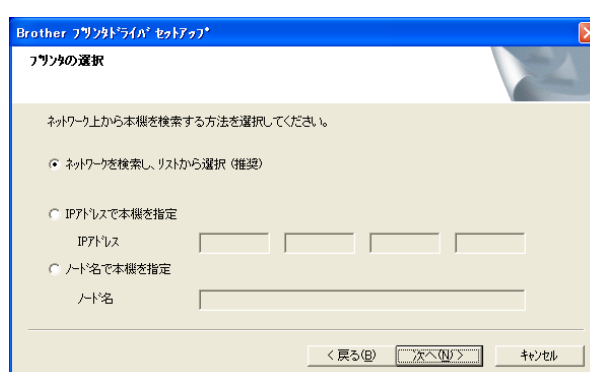
補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

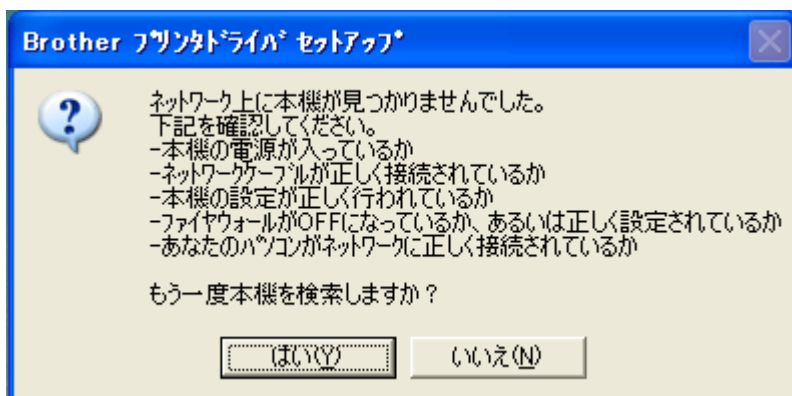
［インストール］をクリックする

［プリンタドライバ（ネットワーク対応のみ）］をクリックする

［次へ］をクリックする

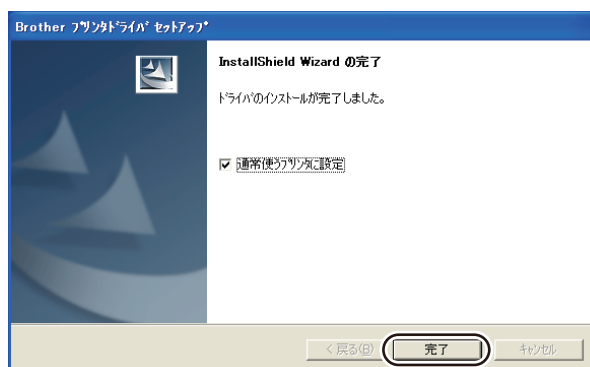
5 使用許諾契約の内容を確認し、［はい］をクリックする

6 ［標準インストール］を選択し、［次へ］をクリックする

7 [Brother ピアツーピア ネットワークプリンタ］を選択し、［次へ］をクリックする

市販のセキュリティソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。

8 プリンタの選択方法を選択し、画面の指示に従ってセットアップを進める

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

注意

■以下の画面が表示されたときは、記載内容を確認し、［はい］をクリックして再度検索を行います。

■それでも検索されない場合は、［いいえ］をクリックし、表示される画面の指示にしたがって、IP　アドレスなどを設定してください。

［完了］をクリックする

プリンタドライバのインストールは完了しました。

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティ許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可してください。

プリンタドライバがインストール済の場合 (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003/2008)

すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、以下の手順でTCP/IPポートの追加と本製品の関連付けをします。

本製品のプリンタドライバのアイコンを表示する

- Windows® 2000の場合
  スタートメニューから［設定］－［プリンタ］を選択します。
- Windows® XP/Windows Server® 2003の場合
  スタートメニューから［プリンタとFAX］を選択します。
- Windows Vista®/Windows Server® 2008の場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックして開きます。

設定するプリンタを右クリックする

表示されるメニューから [プロパティ] をクリックする

[ポート] タブをクリックし、[ポートの追加] をクリックする

[Standard TCP/IP Port] を選択し、[新しいポート] をクリックする

[標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード] が表示されます。

画面の指示に従ってセットアップを進める

ネットワークスキャン機能の設定

ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。
詳しい使い方については、画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

注意

ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するにはP.20を参照してください。
  （ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。）
- ウェブブラウザから設定するにはP.34を参照してください。

ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

スキャナドライバのインストール

付属のCD-ROMに収録されているドライバのインストールが必要です。「かんたん設置ガイド　ネットワーク編」に従ってインストールしてください。詳しくは「かんたん設置ガイド　ネットワーク編」を参照してください。

補足

「スキャン to FTP」、「スキャン to ネットワークファイル」機能は、コンピュータを使用せずに本製品単独で実行できる機能ですので、コンピュータにスキャナドライバをインストールしていなくても使用できます。

設定の変更

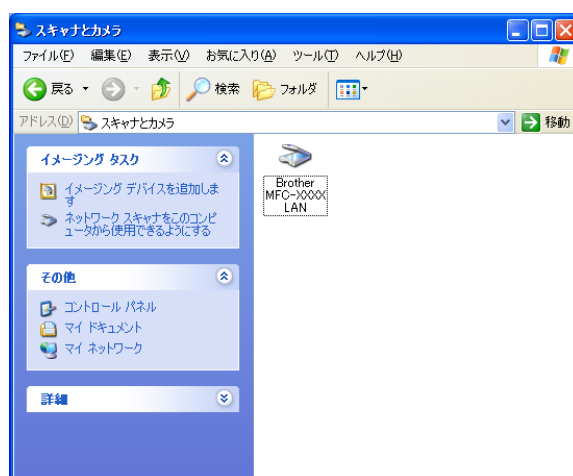
ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定を変更してください。

「スキャナとカメラ」アイコン スキャナとカメラ をダブルクリックする

- Windows® XPの場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］－（［プリンタとその他のハードウェア］）－［スキャナとカメラ］を選択します。
- Windows® 2000の場合
  スタートメニューから［設定］－［コントロールパネル］－［スキャナとカメラ］を選択します。
- Windows Vista® の場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］をクリックして［スキャナとカメラ］をクリックします。

スキャナのアイコンを選択し、［ファイル］－［プロパティ］をクリックする

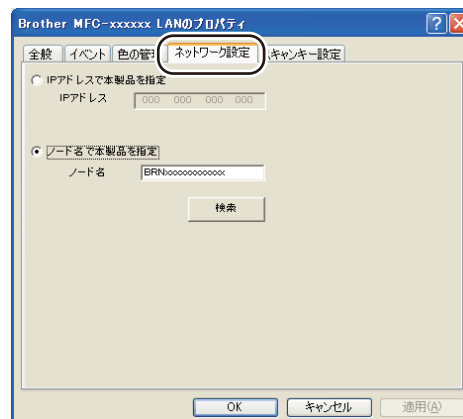
- アイコンを右クリックしたポップアップメニューからも操作できます。
- Windows Vista® の場合は、スキャナのアイコンを選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

補足

Windows Vista®の場合、［ユーザーアカウント制御］画面が表示されたら次の操作をします。

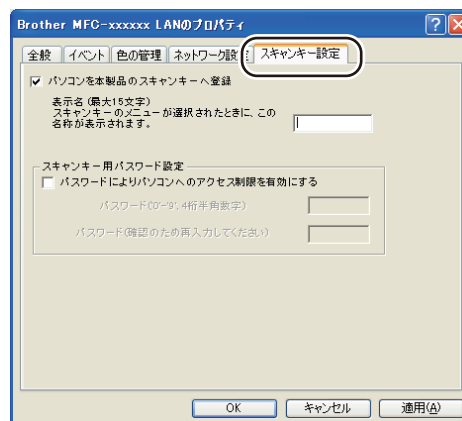
- 管理者権限でログオンしている場合は、［続行］をクリックします。

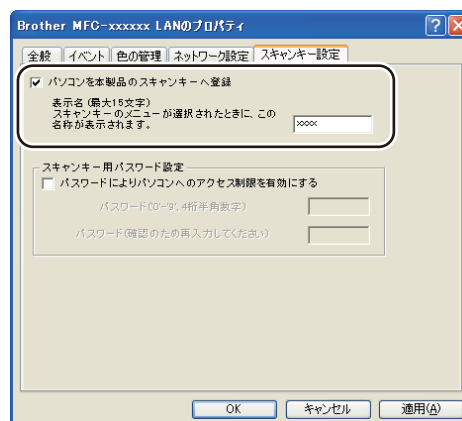
- 一般ユーザーとしてログオンしている場合は、パスワードを入力して［OK］をクリックします。

「ネットワーク設定」タブで設定項目を更新する

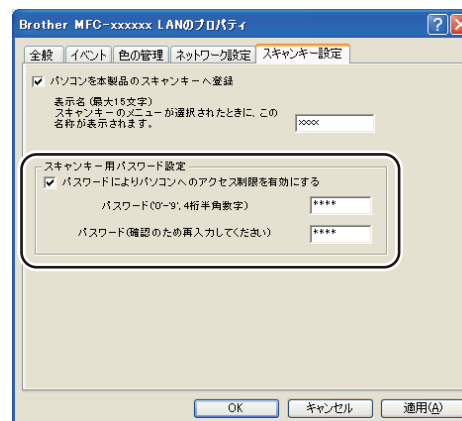
- IPアドレスを更新する場合
  本製品のIPアドレスを入力します。
- 名前を変更する場合
  本製品のノード名を「ノード名」欄に入力します。
- 使用可能な機器一覧から指定して変更する場合
  ［検索］をクリックし、既存のLAN内からネットワークスキャンが使用できるブラザー製品を検索後、指定して［OK］をクリックします。

補足

本製品のIPアドレス・ノード名は、ネットワーク設定リストを印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.33を参照してください。

「スキャンキー設定」タブをクリックする

スキャン画像を取り込むコンピュータ名を登録する

本製品の「スキャン」ボタンを操作した時にコントロールパネル上に表示されるこのコンピュータの名です。初期設定は、お使いのコンピュータ名です。コンピュータ名は、マイコンピュータのプロパティ画面で確認できます。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する

パスワードを設定しておくと、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。

［OK］をクリックする

設定が変更されます。

ネットワークPCファクス機能を使う

ネットワークPCファクス機能とは

ネットワークPCファクス機能は、プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。
ネットワークPCファクス機能を使うと、コンピュータ上のどのようなアプリケーションからでも本製品から相手先ファクス機器に文書を送信できます。
また送付書をつけることも可能で、コンピュータ上で送付先の電話帳を管理できるので非常に便利です。
ファクス文書が経由するのは通常の電話線です。

補足
本製品では、受信したファクスをコンピュータで確認することもできます。PC ファクス機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

ネットワークPCファクス機能を使う準備

ネットワークPCファクス機能では、アプリケーションから印刷を実行し、ドライバとしてBrother PC -FAXを選択するとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PC ファクス機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

PCファクスの関連付け

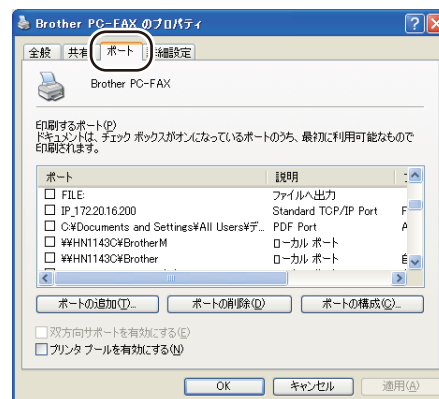
本製品のプリンタドライバのアイコンを表示する

- Windows® 2000の場合
  スタートメニューから［設定］－［プリンタ］を選択します。
- Windows® XP/Windows Server® 2003の場合
  スタートメニューから［プリンタとFAX］を選択します。
- Windows Vista®/Windows Server® 2008の場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックして開きます。

Brother PC-FAX のアイコンを右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

[ポート] タブをクリックし、使用するポートを選択する

複数台のブラザー MFC 製品をご使用の場合は、ネットワーク PC ファクスに使用する MFC 製品をここで指定してください。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

[OK] をクリックする

これで設定は完了です。

● ネットワークPCファクスを使用して通常のファクス機器に電話線を通じてファクスを送信する

送信先の欄に送付先のファクス番号を入力するか、またはあらかじめファクス番号を設定したアドレス帳からメンバーを選択してください。

インターネット印刷を使う

インターネット印刷とは

Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008では、IPP（Internet Printing Protocol）を使用すると、インターネットを通じてプリンタに印刷ジョブを送ることができます。
例えば、東京のオフィスにあるコンピュータ上のMicrosoft® Excelアプリケーションソフトのデータを、大阪のオフィスにあるプリンタで印刷することができます。

インターネット印刷を使う準備

Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008のIPP(Internet Printing Protocol)を用いたインターネット印刷機能を使用するには、次の手順を実行します。

注意

■本製品のIPアドレス設定が完了し、ネットワークに接続されている必要があります。

■インターネットを経由して遠隔地にある本製品に IPP 印刷機能で印刷する場合は、サーバまたはルータに各種の設定が必要です。

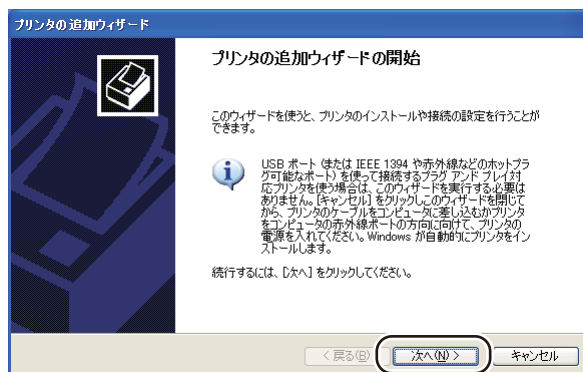
■サーバまたはルータの設定方法や、設定するデータはネットワーク管理者にお問い合わせください。

■お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

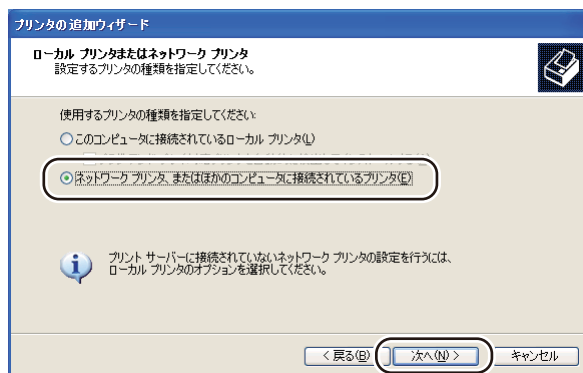
Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 の場合

［スタート］メニューから［プリンタと FAX］をクリックし、［プリンタのインストール］をクリックする

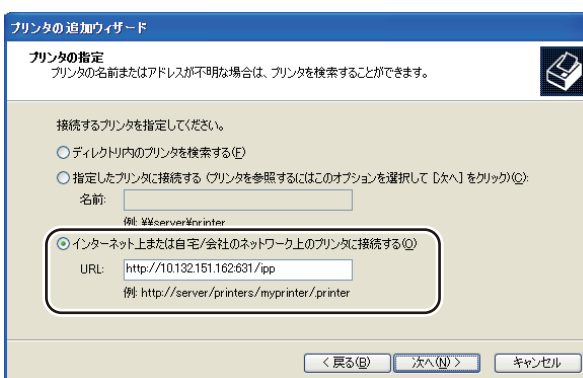
- Windows® 2000の場合は、［スタート］メニューから［設定］－［プリンタ］の順にクリックし、［プリンタの追加］をダブルクリックします。

［プリンタの追加ウィザード］が表示されます。

［次へ］をクリックする

［ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ］をクリックし、［次へ］をクリックする

- Windows® 2000の場合は、［ネットワークプリンタ］をクリックします。

［インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンタに接続する］をクリックし、［URL:］ボックスに次のURL を入力する

- Windows® 2000の場合は、［インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します］をオンにし、［URL:］ボックスに次のURLを入力します。

http://IPアドレス:631/ipp

［IP アドレス］は本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
　http://192.168.1.3:631/ipp

補足

- URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。
- hostsファイルを編集した場合や、またはDNSサーバを使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。

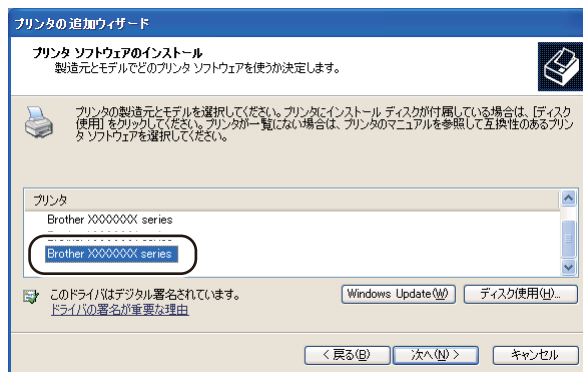
［次へ］をクリックする

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。
  すでにインストールされているプリンタドライバを使用するかどうかを選択し、［次へ］をクリックします。
  手順8に進んでください。

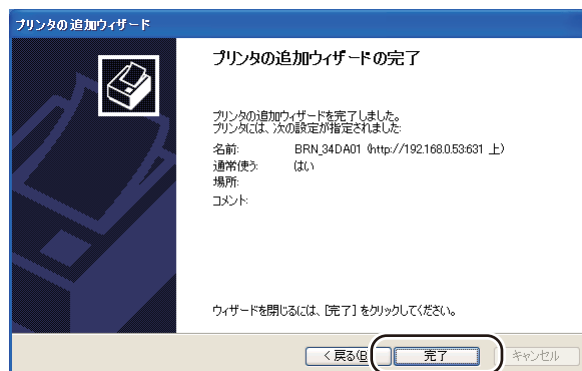
- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  IPP印刷プロトコルのメリットの1つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類をWindows® 2000/XP、Windows Server® 2003に対して指定する必要はありません。
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順6に進んでください。

使用するプリンタドライバを指定する

［ディスク使用］をクリックし、付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットし、［参照］をクリックします。
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。

［次へ］をクリックする

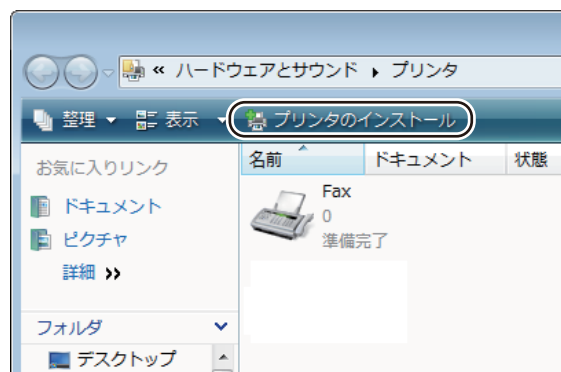
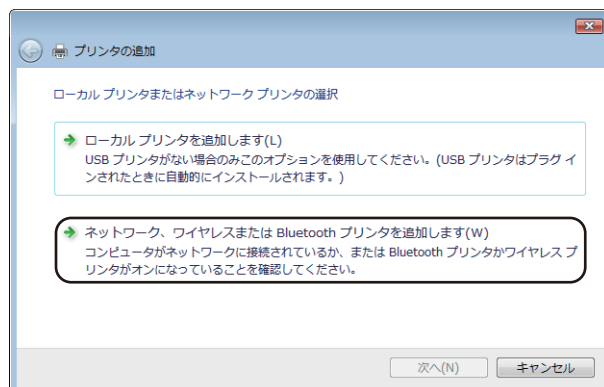
複数のプリンタドライバがインストールされている場合は、本製品を通常使うプリンタとして設定するかどうかを選択し、［次へ］をクリックする

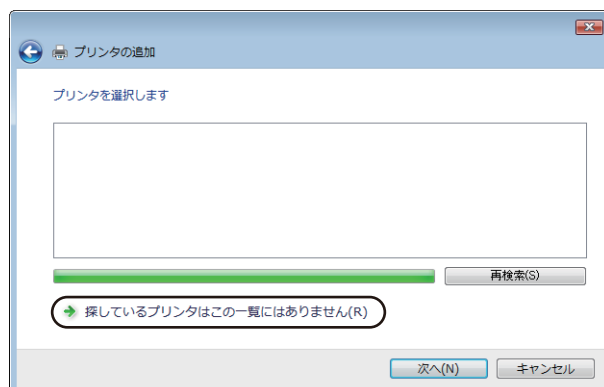
［完了］をクリックする

これで、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 のインターネット印刷機能の設定は完了しました。
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。

Windows Vista®、Windows Server® 2008の場合

［スタート］メニューから［コントロールパネル］をクリックし、［ハードウェアとサウンド］の［プリンタ］をクリックする

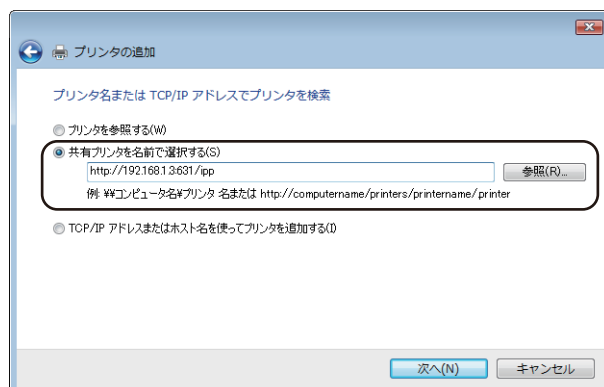
ツールバーの［プリンタのインストール］をクリックする

［プリンタの追加］が表示されます。

［ネットワーク、ワイヤレスまたはBluetooth プリンタを追加します］をクリックする

［探しているプリンタはこの一覧にありません］をクリックする

［プリンタ名または TCP/IP アドレスでプリンタを検索］が表示されます。

［共有プリンタを名前で選択する］をクリックし、ボックスに次の URL を入力する

http://IPアドレス:631/ipp

［IP アドレス］は本製品の IP アドレスです。
例)本製品のIPアドレスが192.168.1.3の場合
http://192.168.1.3:631/ipp

補足

- URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。
- hosts ファイルを編集した場合や、または DNS サーバを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。

［次へ］をクリックする

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。手順10に進んでください。

- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  IPP印刷プロトコルのメリットの1つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類をWindows Vista®、Windows Server® 2008に対して指定する必要はありません。
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順7に進んでください。

使用するプリンタドライバを指定し、[OK] をクリックする

［ディスク使用］をクリックし、付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットし、［参照］をクリックします。
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。

補足

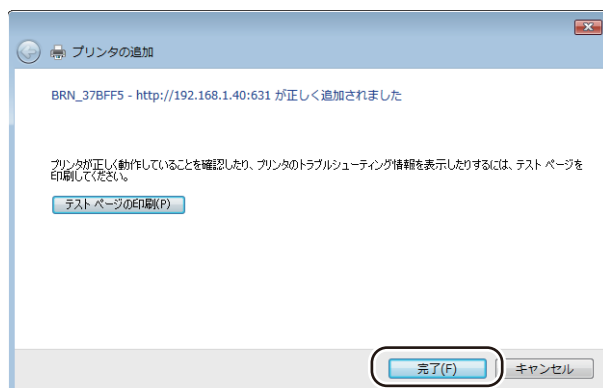
- ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、［続行］をクリックします。
- 「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」という警告メッセージが表示された場合は、［このドライバソフトウェアをインストールします］をクリックし、インストールを続けます。

［次へ］をクリックする

テストページを印刷する場合は、［テストページの印刷］をクリックする

正しく印刷されたか確認し、［閉じる］をクリックしてください。

10 ［完了］をクリックする

これで、Windows Vista®、Windows Server® 2008 のインターネット印刷機能の設定は完了しました。
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。

別のURLを指定する

［URL］ボックスには、次の何種類かの入力が可能です。

補足

「詳細」タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

<推奨>
http://IPアドレス:631/ipp
このURLの使用をお勧めします。

<HP Jetdirect互換用>
http://IPアドレス:631/ipp/port1
HP Jetdirect互換のURLです。

<詳細不明な場合>
http://IPアドレス:631/
URLの詳細を忘れた場合は、このテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

<NetBIOSプロトコル>
http://NetBIOS名:631/ipp
NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。

補足

- ［IPアドレス］は、本製品のIPアドレスまたはノード名を入力します。
- 本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。
  NetBIOS名は、ネットワーク設定リストを印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.33を参照してください。ノード名の最初の15文字が割り当てられます。
  お買い上げ時のNetBIOS名は、“BRNxxxxxxxxxxxx”です。(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。)

4章

Macintosh環境で使う

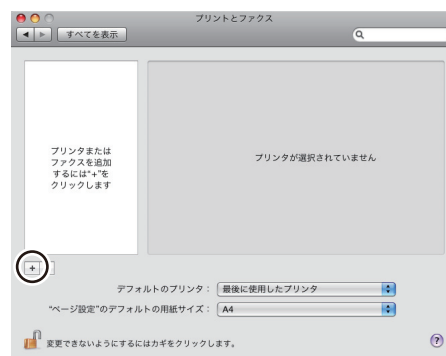
ネットワークプリンタとして使う

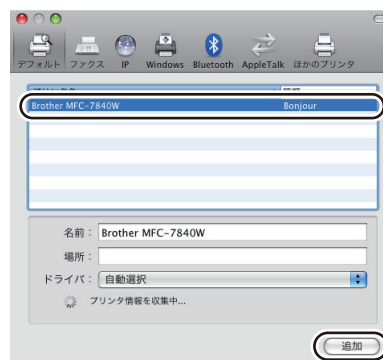
本製品は、Mac OS X 10.3.9以降でサポートされている簡易ネットワーク設定機能に対応しています。
簡易ネットワーク設定機能を使用すれば、ネットワーク上に接続されているプリンタを簡単に使用できるようになります。
簡易ネットワーク設定機能を使う前に、プリンタドライバをインストールする必要があります。かんたん設置ガイドの手順にしたがってドライバのインストールを進めてください。自動的にネットワークの設定が完了します。IP アドレスや本製品のネットワーク構成を手動で設定する必要はありません。

Mac OS X 10.5.xの場合

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

[アップル] メニューの [システム環境設定] を選択する

[プリントとファクス] をクリックする

[＋] をクリックする

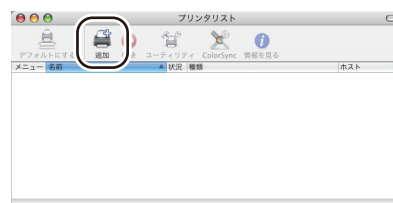
本製品を選択し、［追加］をクリックする

本製品が利用できるようになります。

Mac OS X 10.3.9～10.4.xの場合

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

[移動] メニューの [アプリケーション] を選択する

[ユーティリティ] フォルダをダブルクリックする

[プリンタ設定ユーティリティ] アイコンをダブルクリックする

[追加] をクリックする

本製品を選択し、[追加] をクリックする

本製品が利用できるようになります。

Mac OS X 10.4.x

Mac OS X 10.3.9

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

ネットワークスキャン機能の設定

ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、またE メールの添付ファイルとして他のコンピュータに送り届けることや、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。詳しい使い方については、画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

注意

ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するにはP.17を参照してください。
  （ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。）
- ウェブブラウザから設定するにはP.34を参照してください。

ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

スキャナドライバのインストール

付属のCD-ROM に収録されているドライバのインストールが必要です。「かんたん設置ガイド　ネットワーク編」に従ってインストールしてください。詳しくは「かんたん設置ガイド　ネットワーク編」を参照してください。

補足

「スキャン to FTP」、「スキャン to ネットワークファイル」機能は、ドライバのインストールを実施しなくても使用することができます。

設定の変更

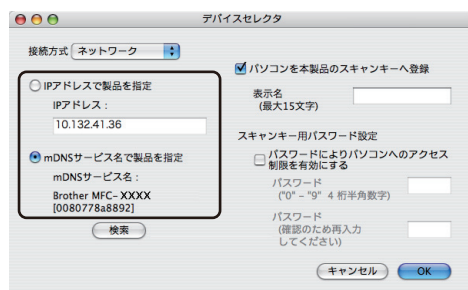
ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定をしてください。

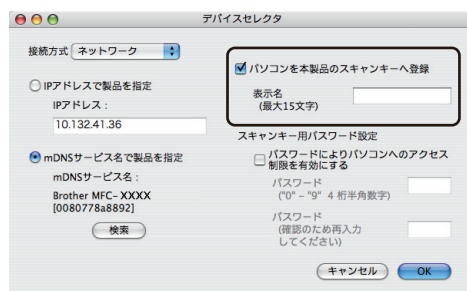
［ライブラリ］フォルダの［Printers］-［Brother］-［Utilities］-［DeviceSelector］の［デバイスセレクタ］をダブルクリックする

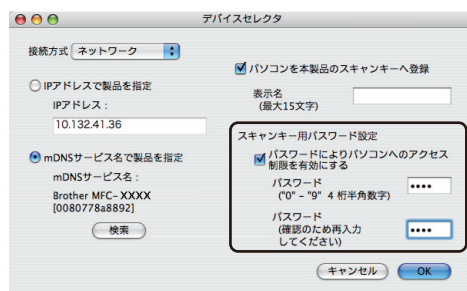
［デバイスセレクタ］ウィンドウが開きます。

IP アドレスまたは mDNS サービス名を入力する

IP アドレスを変更する場合は、新しい IP アドレスを入力します。
［検索］ボタンをクリックすると、接続可能な製品が表示されますので、表示されるリストから選択することもできます。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

スキャン画像を取り込むコンピュータ名を登録する

本製品の「スキャン」ボタンを操作した時に本製品の液晶ディスプレイ上に表示されるこのコンピュータ名です。

他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する

パスワードを設定しておくと、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。

［OK］をクリックする

ネットワークPCファクス機能（送信のみ）を使う

ネットワークPCファクス 機能では、アプリケーションの［ファイル］メニューから［プリント］を選び、プリントダイアログで「ファクス送信」を選択するとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PCファクス機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

ネットワークPCファクス機能とは

PC ファクス 機能を利用すると、コンピュータ上のアプリケーションで作成した印刷データを、ネットワーク上の本製品からファクスとして送信できます。
PCファクス を使うときは、あらかじめMacintoshの アドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクス送信先を簡単に設定できます。

補足

ファクスの送信手順やアドレス帳の使い方などについては、画面で見るマニュアル（HTML 形式）の「PC ファクス」を参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

5章

セキュリティ機能

概要

コンピュータをネットワークに接続していると、悪意のある第三者によって不正にネットワークにアクセスされてデータや機密情報が読み取られてしまうなどの危険性があります。
本製品は、最新のネットワークセキュリティおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。
この章では、本製品がサポートしているセキュリティプロトコルやその設定方法について説明します。

セキュリティ用語

● 証明機関（CA）

電子的な身分証明書（X.509証明書）を発行し、証明書内の公開鍵などのデータと、その所有者の結び付きを保証する機関です。

● CSR（証明書署名要求）

証明書の発行を申請するために、証明機関（CA）に送信するメッセージです。CSRには、申請者を識別する情報、申請者が作成した公開鍵、申請者のデジタル署名が含まれます。

● 証明書

公開鍵と本人を結び付ける情報です。証明書を用いて、個人に所属する公開鍵を確認することができます。形式は、x.509規格で定義されています。

● デジタル署名

データの受信者がデータの正当性を確認するための情報です。暗号アルゴリズムで計算される値で、データオブジェクトに付加されます。

● 公開鍵暗号システム

秘密鍵と公開鍵で一対の鍵になります。暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、それぞれ異なるキーを用いる暗号方法です。

● 共有鍵暗号システム

暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、同じキーを用いる暗号方法です。

セキュリティプロトコル

本製品は、以下のセキュリティプロトコルに対応しています。

補足

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。

● SSL（Secure Socket Layer）/TLS（Transport Layer Security）

これらのセキュリティ通信プロトコルは、データを暗号化して、セキュリティを強化します。

● HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）で SSLを用いるインターネットプロトコルです。

● IPPS

インターネット印刷プロトコル（IPPバージョン 1.0）で SSLを用いる印刷プロトコルです。

● SNMPv3

ネットワーク機器を安全に管理するため、ユーザー認証とデータの暗号化を行います。

Eメール通達のセキュリティを設定する

本製品は、以下の Eメール通達のセキュリティに対応しています。

補足

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。

● POP before SMTP（PbS）

クライアントから Eメールを送信する際のユーザー認証方法です。クライアントは、Eメールを送信する前に POP3サーバにアクセスすることによって、SMTPサーバを使用する許可を得ます。

● SMTP-AUTH（SMTP 認証）

クライアントから Eメールを送信する際のユーザー認証方法です。SMTP-AUTHは、SMTP（インターネット Eメール送信プロトコル）を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

● APOP

APOPは、POP3（インターネット Eメール受信プロトコル）を拡張し、クライアントが Eメールを受信するときに用いるパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

プロトコルを設定する

ウェブブラウザを使って、各プロトコルおよびセキュリティ方法を有効または無効にできます。

補足

- Windows®の場合はMicrosoft® Internet Explorer® 6.0以降または Firefox 1.0以降、Macintoshの場合は Safari 1.3以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびCookieを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IPアドレスが必要です。
  本製品のお買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/ を入力する

（[ip_address] はご使用になる本製品の IP アドレス）

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
　　ブラウザに http://192.168.1.2/ を入力します。

補足

hostsファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。
NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」P.33 を参照してください。
お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。
（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

［ネットワーク設定］をクリックする

［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

［プロトコル設定］をクリックする

必要に応じてプロトコルの設定を変更する

設定を変更した場合は、［OK］をクリックする

本製品の電源を入れ直した後に、設定が変更されます。

ネットワークプリンタを安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するには、セキュリティプロトコルと合わせて、以下の管理ソフトウェアを使用する必要があります。
- ウェブブラウザ
- BRAdmin Professional P.79

ウェブブラウザを使って安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するためには、HTTPSと SNMPv3の使用をおすすめします。HTTPSプロトコルを使用するには、以下の設定が必要です。
- 証明書と秘密鍵をインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.83 を参照してください。
- HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。 HTTPS プロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、［プロトコル設定］の［ Web Based Management（Web Server)］の［詳細設定］で、「SSL通信を使う（ポート 443)」を有効にします。［プロトコル設定］ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。

補足

- Windows®の場合はMicrosoft® Internet Explorer® 6.0以降または Firefox 1.0以降、Macintoshの場合は Safari 1.3以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびクッキーを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IP アドレスが必要です。本製品のお買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。
- Telnet、FTP、TFTPプロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://Common_Name/ を入力する

［Common_Name］は、IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.83 を参照してください。

例）https://192.168.1.2/（「Common_Name」が本製品の IP アドレスである場合）

補足

hostsファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。
NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」P.33 を参照してください。
お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「 BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。
（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

HTTPS を使って本製品にアクセスする

HTTPS プロトコルを使用するときは、SNMPv3 を合わせて使用することをおすすめします。SNMPv3 を使用する場合は以降の手順に従ってください。

補足

SNMP設定は BRAdmin Professionalでも変更できます。

［ネットワーク設定］をクリックする

［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

［プロトコル設定］をクリックする

必ず SNMP 設定を有効にし、SNMP の［詳細設定］をクリックする

右の画面から SNMP 設定を設定できます。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

SNMP動作モードは次の3種類です。

● SNMPv3 read-write access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 3が使用されます。安全に本製品を管理する場合は、このモードを選択してください。

補足

「SNMPv3 read-write access」を使用する場合は、次の点に注意してください。

- プリントサーバは、BRAdmin Professionalまたはウェブブラウザでのみ管理できます。
- SSL通信（ HTTPS）の使用をおすすめします。
- BRAdmin Professional 以外では、SNMPv1/v2c を使用するすべてのアプリケーションが制限されます。SNMPv1/v2c で動作するアプリケーションを使用するには、「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」または「 SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

● SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 3の読み書きと、バージョン 1および 2cの読み取りが使用されます。

補足

「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」を使用する場合は、バージョン 1および 2cの読み取りアクセスではパスワード認証ができないため、BRAdmin Lightなどのブラザーアプリケーションが正しく動作しません。すべてのブラザーアプリケーションを使用する場合は、「SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

● SNMPv1/v2c read-write access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 1および 2cが使用されます。すべてのブラザーアプリケーションが使用できます。ただし、ユーザーが認証されず、データが暗号化されないため、安全ではありません。

補足

詳細については、ウェブブラウザの SNMP設定のヘルプ を参照してください。

BRAdmin Professionalを使って安全に管理する（Windows®のみ）

BRAdmin Professionalを使って本製品を安全に管理するには、次の点に従ってください。

- BRAdmin Professionalの最新バージョンをご使用されることをおすすめします。
  BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。旧バージョンの BRAdmin Professionalを使ってブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- 旧バージョン※1のBRAdminからアクセスすることを避けたい場合は、ウェブブラウザを使って「プロトコル設定」画面の SNMPの［詳細設定］で、旧バージョン※1の BRAdminからのアクセスを無効に設定する必要があります。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」P.76 を参照してください。
- Telnet、FTP、TFTPプロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。
- BRAdmin　Professional とウェブブラウザを同時にお使いになる場合は、 HTTPS プロトコルでウェブブラウザをお使いください。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」P.76 を参照してください。
- 従来のプリントサーバ※2と本製品のプリントサーバ（ NC-6800h）が混在したグループを BRAdmin Professional で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをおすすめします。これによって本製品が安全に管理されます。

※1　Ver. 2.80以前の BRAdmin Professional、Ver. 1.10以前の Macintosh用 BRAdmin Light
※2　NC-2000シリーズ、NC-2100p、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-130h、NC-8100h、NC-9100h

IPPSを使って文書を安全に印刷する

文書を暗号化し、インターネットを経由して安全に印刷するには、IPPSプロトコルを利用します。

IPPSを使用した通信では、本製品への不正アクセスを防止することはできません。

補足

IPPSは、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®で利用できます。

IPPSプロトコルを使用するには、以下の設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.83 を参照してください。
- IPPSプロトコルを有効にする必要があります。IPPSプロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、［プロトコル設定］の［IPP］の［詳細設定］で、「SSL通信を使う（ポート443）」を有効にします。本製品の［プロトコル設定］ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」P.75 を参照してください。

IPPS印刷の基本的な手順は、IPP印刷と同じです。詳細については、「インターネット印刷を使う」P.60 を参照してください。

別の URLを指定する

URL欄には、下記の入力が可能です。

補足

［詳細］タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

https://Common_Name/ipp
推奨 URLです。

https://Common_Name/ipp/port1
HPJetdirect用の URLです。

https://Common_Name/
URLの詳細を忘れた場合は、上記のテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

［Common_Name］（コモンネーム）は、IPアドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.83 を参照してください。

例）https://192.168.1.2/（「コモンネーム」が本製品の IPアドレスである場合）
　　https://BRNxxxxxxxxxxxx/（「コモンネーム」が本製品のホスト名である場合）
　　「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。

ユーザー認証付 Eメール通達を使用する

ユーザー認証を必要とする SMTPサーバを経由して、Eメール通達機能を使用するには、「POP before SMTP」または「 SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスすることを防ぎます。ウェブブラウザおよび BRAdmin Professionalを使用して設定することができます。

補足

POP3/SMTP認証の設定を Eメールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。Eメール通達機能は、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、［Eメール通達（エラー情報）］から設定してください。

ウェブブラウザを使って POP3/SMTPを設定する

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://ip_address/ を入力する

（［ip_address］はご使用になる本製品の IP アドレス）

例）本製品の IPアドレスが 192.168.1.2の場合
　　ブラウザに https://192.168.1.2/ を入力します。

補足

hostsファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。
NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」P.33 を参照してください。
お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「 BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。
（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

［ネットワーク設定］をクリックする

［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

［プロトコル設定］をクリックする

POP3/SMTP 設定を必ず有効にし、［POP3/SMTP 詳細設定］をクリックする

POP3/SMTP の設定を変更する

補足

- ウェブブラウザで　SMTP ポート番号も変更できます。これは、ご使用の ISP（インターネットサービスプロバイダ）が「 Outbound Port 25 Blocking（OP25B)」サービスを実施している場合に便利です。SMTPポート番号を ISPが SMTPサーバで使用している特有の番号（例：ポート 587）に変更することで、SMTPサーバ経由で Eメールを送信できるようになります。SMTPサーバ認証を有効にする場合は、「送信メールサーバ（ SMTP）認証方式」の「 SMTP-AUTH」を選択する必要があります。
- 「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、「SMTP-AUTH」を選択することをおすすめします。
- 「送信メールサーバ（ SMTP）認証方式」を「 POP before SMTP」に設定すると、「受信メールサーバ（ POP3)」の設定が必要となります。また、「APOPを使用」をチェックして、APOP方式を使用することもできます。
- 詳細については、ウェブブラウザの POP/SNMP設定のヘルプ を参照してください。
- 設定後にテストメールを送信し、Eメール設定が正しいことを確認してください。

設定を変更した場合は、［OK］をクリックする

テストメール送信設定画面が表示されます。

現在の設定をテストしたい場合は、画面上の指示に従う

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

証明書を作成してインストールする

本製品では、証明書と該当する秘密鍵を設定することによって、SSL/TLS通信を行うことができます。本製品は、自己署名証明書と証明機関（ CA）発行の証明書の 2種類の証明書に対応しています。

● 自己署名証明書を使用する

本製品自ら証明書を発行します。証明機関（ CA）から証明書を取得することなく、この証明書を用いて、簡単に SSL/TLS通信を行うことができます。「自己署名証明書を作成する」P.85 を参照してください。

● 証明機関（CA）発行の証明書を使用する

既に証明機関（CA）を持っている場合、または外部の信頼された証明機関（ CA）が発行した証明書を使用したい場合は、次の 2つのインストール方法があります。

- 本製品から CSR（証明書署名要求）を送信するには、「CSRを作成してインストールする」P.96 を参照してください。
- 証明書と秘密鍵をインポートするには、「証明書と秘密鍵をインポートする」P.98 を参照してください。

補足

●SSL/TLS通信を行う場合は、あらかじめシステム管理者にお問い合わせいただくことをおすすめします。

●本製品は、インストールした、または以前にインポートした一対の証明書と秘密鍵のみを保存します。新しいものをインストールすると、古い証明書と秘密鍵に上書きされます。

●本製品を工場出荷時の設定にリセットすると、インストールした証明書と秘密鍵は削除されます。本製品をリセットした後も、同じ証明書と秘密鍵を使用したい場合は、リセットする前にエクスポートしておいてください。「証明書と秘密鍵をエクスポートする」P.99 を参照してください。

証明書設定画面を表示する

証明書機能は、ウェブブラウザのみで設定できます。ウェブブラウザを使用して証明書設定画面を表示する場合は、次の手順に従ってください。

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://ip_address/ を入力する

（[ip_address］はご使用になる本製品の IP アドレス）

例）本製品の IPアドレスが 192.168.1.2の場合
　　ブラウザに https://192.168.1.2/ を入力します。

補足

hostsファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。
NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定内容リストの出力」P.33 を参照してください。
お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「 BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。
（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

［ネットワーク設定］をクリックする

[ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

[証明書設定] をクリックする

右の画面から証明書を設定できます。

補足

- ●リンクされていないグレー表示の機能は、利用できません。
- ●詳細については、ウェブブラウザの証明書設定ページのヘルプ を参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

自己署名証明書を作成する

証明書設定画面の［自己署名証明書の作成］をクリックする

コモンネームと有効期限を入力して、［OK］をクリックする

「データ書き込み中」と表示されます。

補足

●コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IPアドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時はノード名が設定されています。

●IPPS または　HTTPS プロトコルを使用している場合に、自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URLに入力すると警告画面が表示されます。

［OK］をクリックする

「自己署名証明書を作成しました」と表示されます。

表示された画面の指示に従って「SSL 使用機能プロトコルの設定」を設定する

- 設定が終了すると、本製品が自動的に再起動し、自己署名証明書が本製品のメモリに保存されます。
- SSL/TLS通信を行うには、ご使用のコンピュータにも自己署名証明書をインストールする必要があります。
  次の「自己署名証明書をコンピュータにインストールする」P.86 に進んでください。

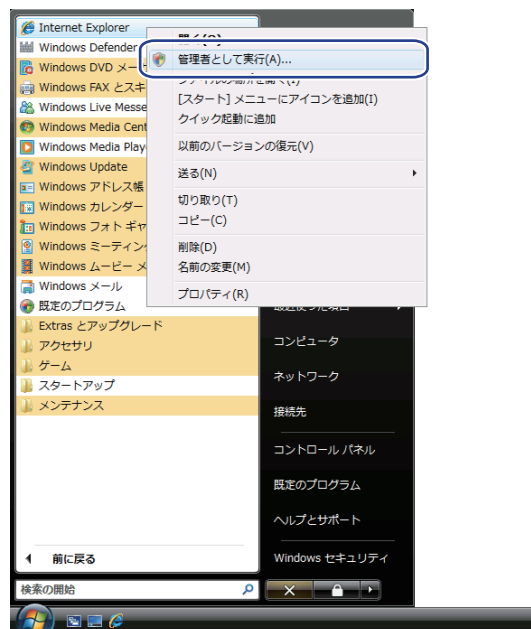
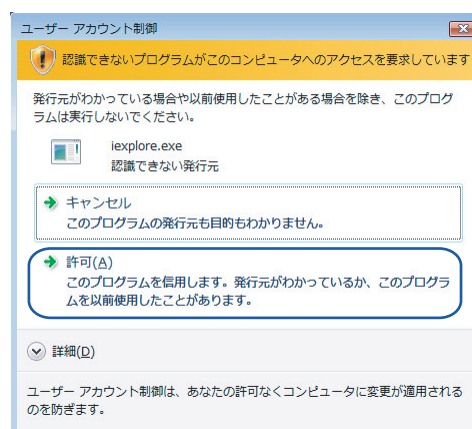
自己署名証明書をコンピュータにインストールする

補足

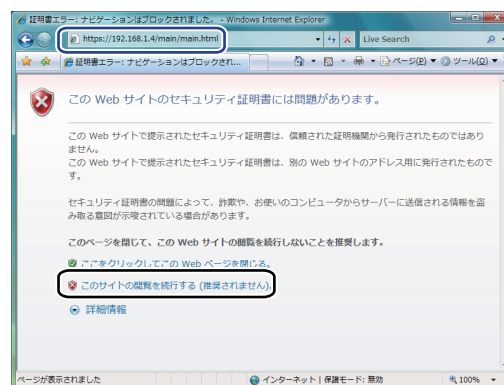
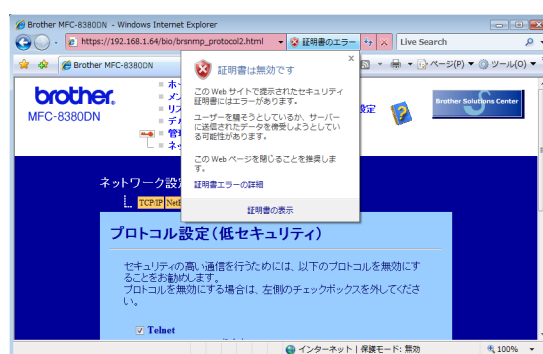
以下の手順は、Microsoft® Internet Explorer®を例にしています。他のウェブブラウザを使用している場合は、ウェブブラウザ自身のヘルプに従ってください。

管理者アカウントで Windows Vista®をご使用の場合

［スタート］メニューから「すべてのプログラム」をクリックする

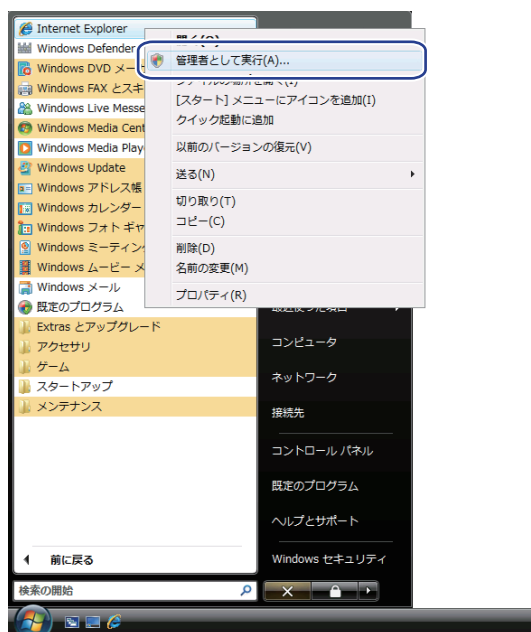
［Internet Explorer］を右クリックし、
［管理者として実行］をクリックする

この画面が表示されたら、［許可］をクリックする

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://ip_address/ を入力する

（[ip_address] はご使用になる本製品の IP アドレスまたはノード名）

次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックする

[証明書のエラー] をクリックし、次に [証明書の表示] をクリックする

「Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008 をご使用の場合」の手順 4 **P.93 に進む**

管理者ではないアカウントで Windows Vista®をご使用の場合

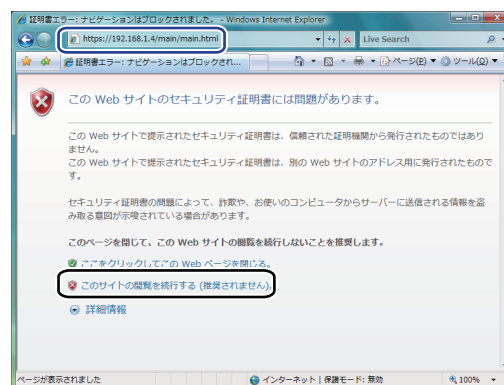
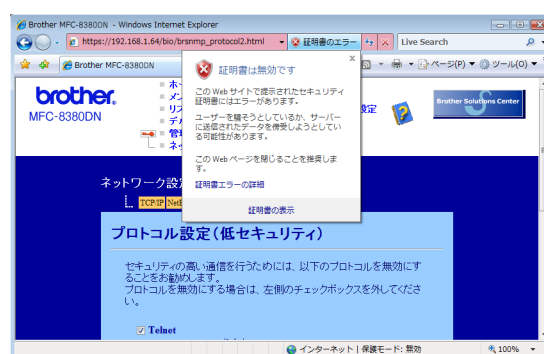
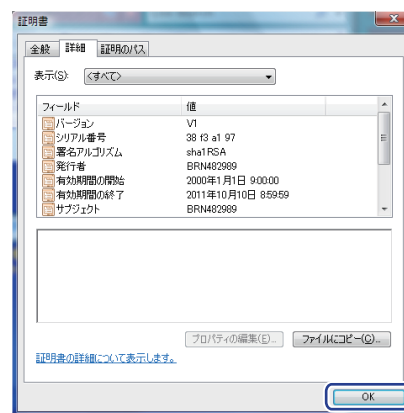
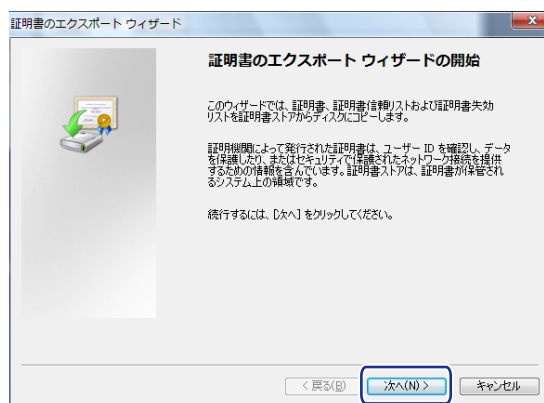
[スタート］メニューから「すべてのプログラム」をクリックする

[Internet Explorer］を右クリックし、
[管理者として実行］をクリックする

この画面が表示されたら管理者アカウントのパスワードを入力して、[OK］をクリックする

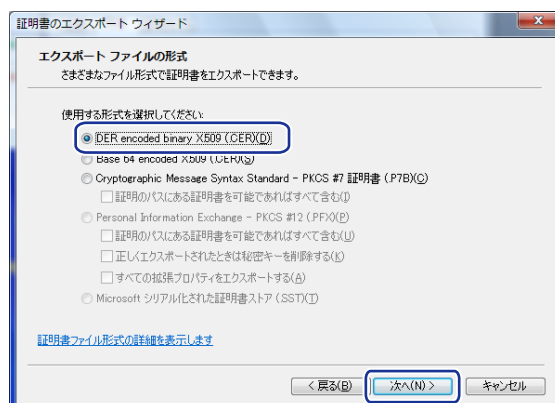
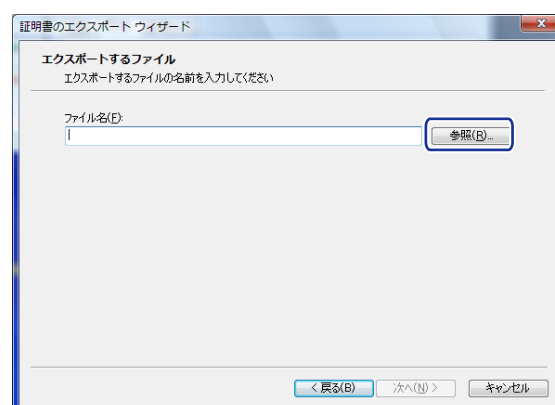
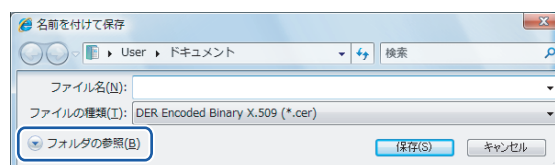
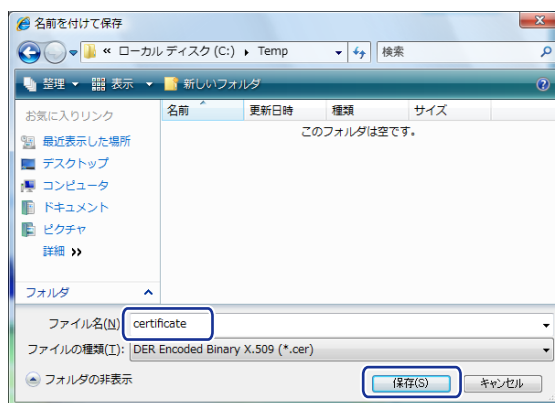
目次
本書の使い方
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

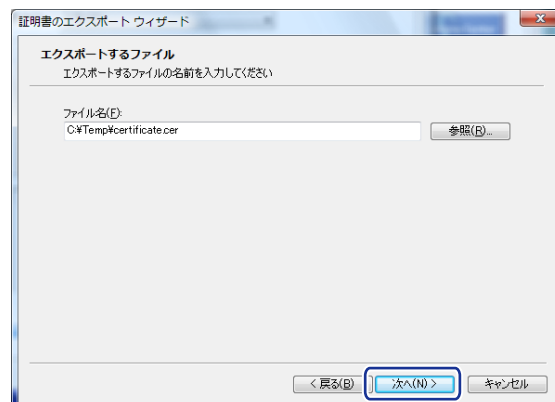
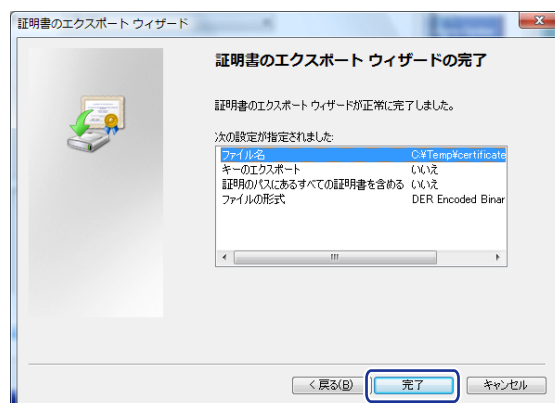
ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://ip_address/ を入力する

（[ip_address］はご使用になる本製品の IP アドレスまたはノード名）

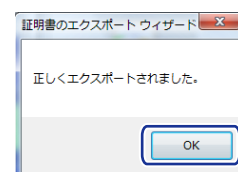
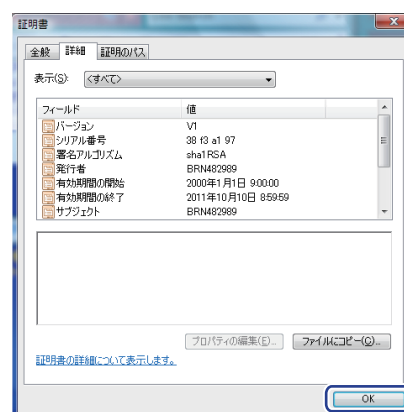
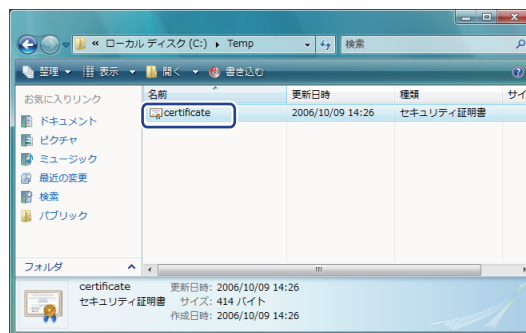
次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックする

［証明書のエラー］をクリックし、次に［証明書の表示］をクリックする

［詳細］タブを選択し、［ファイルにコピー］をクリックする

［次へ］をクリックする

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

8 「DER encoded binary X.509 (.CER)」が選択されていることを確認し、［次へ］をクリックする

9 ［参照］をクリックする

10 ［フォルダの参照］をクリックする

11 証明書ファイルを保存したいフォルダを選択し、ファイル名を入力して、［保存］をクリックする

デスクトップを選択した場合は、選択した管理者アカウントのデスクトップに保存されます。

12 ［次へ］をクリックする

13 ［完了］をクリックする

14 ［OK］をクリックする

15 ［OK］をクリックする

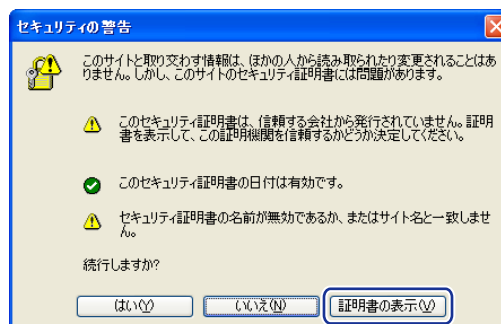
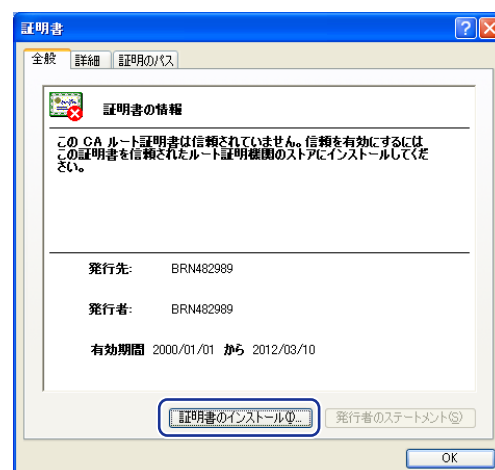
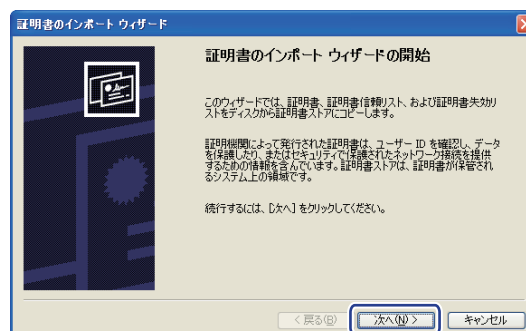
本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

16 手順 11 で証明書ファイルを保存したフォルダを開き、証明書ファイルをダブルクリックする

17 「Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008 をご使用の場合」の手順 4 P.93 に進む

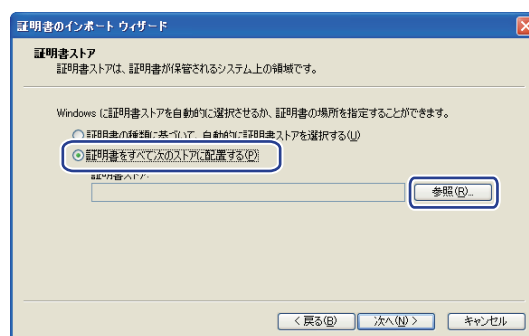
Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008をご使用の場合

ウェブブラウザを起動する

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://printer_ip_address/ を入力する

（[printer_ip_address］はご使用になる本製品の IP アドレスまたはノード名）

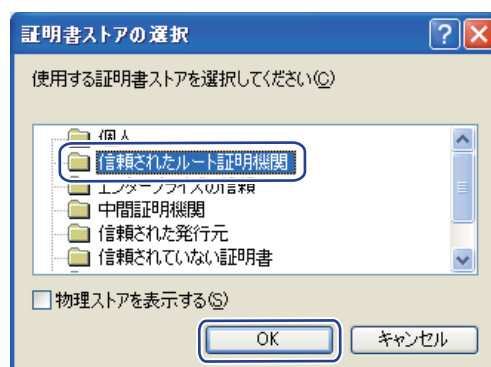
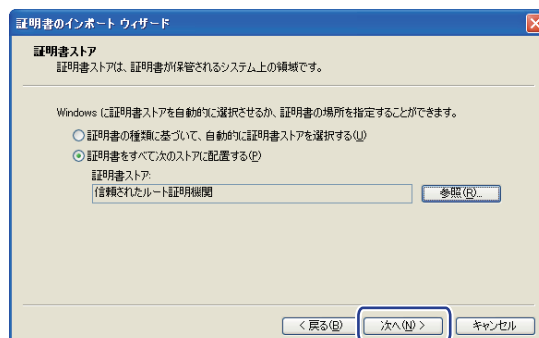
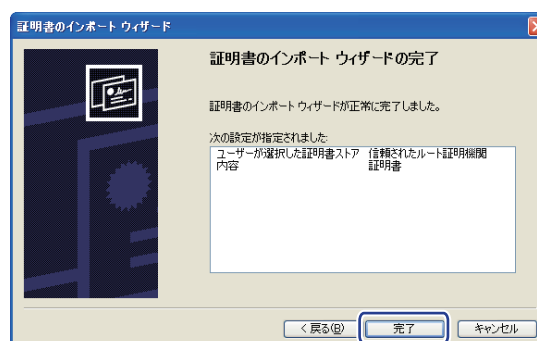
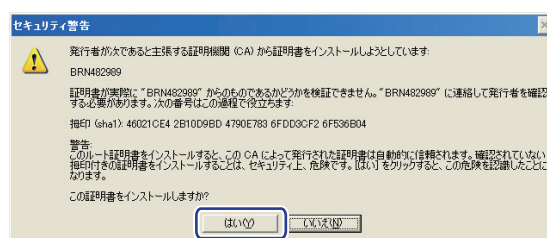
［証明書の表示］をクリックする

［全般］タブで［証明書のインストール］をクリックする

［次へ］をクリックする

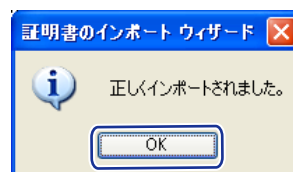
「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択し、［参照］をクリックする

「信頼されたルート証明機関」を選択し、［OK］をクリックする

8

［次へ］をクリックする

［完了］をクリックする

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

10 フィンガープリント（拇印プリント）が正しければ、［はい］をクリックする

フィンガープリント（拇印プリント）は、プリンタ設定一覧で印刷されます。プリンタ設定一覧の印刷方法については、画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

11 ［OK］をクリックする

12 自己署名証明書がコンピュータにインストールされ、SSL/TLS 通信が可能になる

CSRを作成してインストールする

CSRを作成する

証明書設定画面の［CSR の作成］をクリックする

コモンネームと組織などの情報を入力して、［OK］をクリックする

- CSR を作成する前に、証明機関（CA）発行のルート証明書を、お使いのコンピュータにインストールすることをおすすめします。
- コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IPアドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ノード名が表示されます。コモンネームは必須入力項目です。
- 自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URLに入力すると、警告画面が表示されます。
- 組織、部署、市、県の長さは、64バイト未満にしてください。
- 国 /地域は、二文字からなる ISO 3166国コードを使用してください。

CSR の内容が表示されたら［保存］をクリックし、CSR ファイルをコンピュータに保存する

CSR が作成される

補足

- CSRを証明機関(CA)に送信する方法については、証明機関(CA)の方針に従ってください。
- Windows Server® 2003/2008 の「エンタープライズのルート CA」をご使用の場合は、証明書の作成時に「証明書テンプレート」の「 Webサーバー」を選択することをおすすめします。
- 詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）を参照してください。

証明書をインストールする

証明機関(CA)から証明書を受け取ったら、以下の手順に従って本製品にインストールしてください。

本製品のCSRで発行された証明書以外はインストールできません。

証明書設定画面の［証明書のインストール］をクリックする

証明機関 (CA) が発行した証明書のファイルを指定し、［OK］をクリックする

証明書が正しく作成される

他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従う

本製品の電源を入れ直す

証明書が本製品にインストールされる

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関 (CA) 発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をインポート /エクスポートする

証明書と秘密鍵をインポートする

証明書設定画面の［証明書と秘密鍵のインポート］をクリックする

インポートしたいファイルを指定する

ファイルが暗号化されている場合は、パスワードを入力し、［OK］をクリックする

証明書と秘密鍵が正しく作成される

他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従う

本製品の電源を入れ直す

証明書と秘密鍵が本製品にインポートされる

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をエクスポートする

証明書設定画面の［証明書と秘密鍵のエクスポート］をクリックする

ファイルを暗号化したい場合は、パスワードを入力し、[OK] をクリックする

パスワードが空白のままだと、暗号化されません。

確認のため、再度パスワードを入力し、[OK] をクリックする

ファイルを保存したい場所を指定する

証明書と秘密鍵がコンピュータにエクスポートされる

エクスポートしたファイルをインポートすることもできます。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

6章

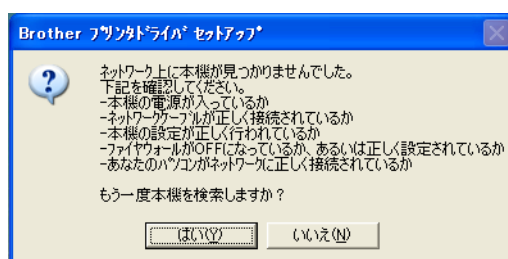
困ったときは（トラブル対処方法）

概要

この章では、ネットワークに関してトラブルが発生したときの対応方法について説明しています。
該当する問題のページをご覧ください。

- インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない P.101
- 印刷/ スキャンできない P.102
- ネットワーク機器に問題ないか調べるには P.103
- ネットワークの設定がうまくいかないときは P.105

インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない

■以下の画面が表示されたときは、記載内容を確認し、［はい］をクリックして再度検索を行います。

■それでも検索されない場合は、［いいえ］をクリックし、表示される画面の指示にしたがって、IPアドレスなどを設定してください。

以下の項目を確認してください。

お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼動しているか確認する

「ネットワーク機器に問題ないか調べるには」P.103

セキュリティソフトによってブロックされていないか確認する

「セキュリティソフトウェアについて」P.104

設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないか確認する

「ネットワークの設定がうまくいかないときは」P.105

印刷/ スキャンできない

以下の項目を確認してください。

お使いのパソコンから本製品までの接続ケーブルや接続機器が正常に動作しているか確認する

「ネットワーク機器に問題ないか調べるには」P.103

セキュリティソフトによってブロックされていないか確認する

「セキュリティソフトウェアについて」P.104

設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないかを確認する

「ネットワークの設定がうまくいかないときは」P.105

ルータやスイッチングハブの電源を入れなおす

頻繁に接続しなおしたり、接続している製品の IP アドレスを繰り返し変更した直後には、IP アドレス設定に間違いがなくても正常に動作しない可能性があります。ルータやハブ（HUB）の電源を入れなおしてください。

古い印刷ジョブを削除する

印刷に失敗した古いデータが残っていると印刷できない場合があります。プリンタフォルダ内のプリンタアイコンをダブルクリックし、［プリンタ］メニューから［すべてのドキュメントの取り消し］を行ってください。

プリンタフォルダの表示方法

- Windows Vista®の場合
  ［スタート］－［コントロールパネル］－［ハードウェアとサウンド］－［プリンタ］の順にクリックします。
- Windows® XPの場合
  ［スタート］－［コントロールパネル］－［プリンタとその他のハードウェア］－［プリンタとFAX］の順にクリックします。
- Windows® 2000の場合
  ［スタート］－［設定］－［プリンタ］の順にクリックします。

ここで印刷 / スキャンなどができなかった場合は、一度ドライバとソフトウェアをアンインストールして、かんたん設置ガイド　ネットワーク編に従って、再度インストールしなおすことをおすすめします。

補足

アンインストールの方法（Windows®の場合）
［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［MFC-XXXX］を選び、［アンインストール］をクリックします。画面の指示に従ってアンインストールをしてください。

ネットワーク機器に問題ないか調べるには

お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼動しているか、以下の点を確認してください。

本製品の電源は入っていますか？

電源を入れて、印刷できる状態であることを確認します。エラーが出ている場合は ユーザーズガイド基本編の「こんなときは」を参照してエラーを解除してください。

ネットワーク接続

接続したルータやハブ（HUB）のランプは点灯/ 点滅していますか？
本製品を接続しているLAN ポートのリンクランプを確認します。

- ランプが点灯/ 点滅している場合
  接続には問題ありません。
- ランプが点灯/ 点滅していない場合
  物理的な接続に問題があるようです。以下の項目を確認してください。

ハブ（HUB）またはルータなどの LAN ポートにパソコンと本製品が正しく接続されている？

接続されていない場合は正しく接続しなおしてください。ストレートケーブル以外は使用しないでください。
他のケーブルで接続しなおしてください。

ルータ / ハブ（HUB）のリンクランプが点灯 / 点滅している？

一般的に、ルータ / ハブ（HUB）には接続状態を示すリンクランプがあり、点灯 / 点滅で接続状態を確認できます。
点灯 / 点滅していない場合には

- ほかのLAN ポートに接続しなおす
- ほかのLAN ケーブルに差し換える

ことで改善されるかお試しください。
それでも点灯 / 点滅しない場合は、ハブ（HUB）または、ルータのメーカーにご相談ください。

セキュリティソフトウェアについて

インストール

市販のセキュリティソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。

セキュリティ許可を促す画面で、拒否をするとインストールが完了できないことがあります。この場合は、一時的にセキュリティソフトを停止し、ドライバのインストールをやり直してください。

印刷やその他の機能をご利用になるとき

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティ許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可してください。

拒否をした場合、セキュリティの解除方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご確認いただくか、セキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

本機のネットワーク機能をご利用になるとき

以下の機能をご利用いただく場合は、セキュリティ設定を行う必要があります。

- ネットワークスキャン
- ネットワークPCファクス受信

それぞれのセキュリティソフトの設定で、下記のポート番号を追加してください。

ポート番号の追加方法は、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書、またはセキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

機能	名称*	ポート番号	プロトコル (TCP/UDP)
ネットワークスキャン	例） Brother NetScan	54925	UDP
ネットワーク PCファクス受信	例） Brother PC-FAX RX	54926	UDP

＊：名称は任意です。

ネットワークの設定がうまくいかないときは

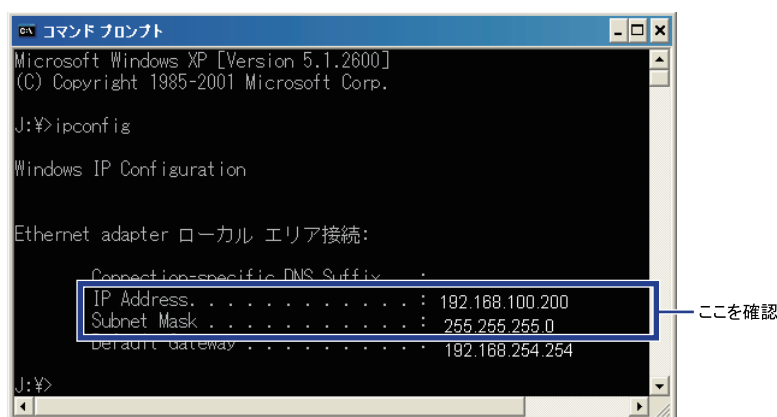
設定しているネットワーク情報（IPアドレスおよびサブネットマスク）に誤りがないかどうかを確認します。

パソコンのネットワーク情報を調べる

お使いのパソコンと本製品のIPアドレスおよびサブネットマスクを以下の手順で確認します。

［スタート］メニューから［プログラム］-［アクセサリ］を選び、［コマンドプロンプト］をクリックする

「ipconfig」と入力し、Enter キーを押す

「IP Address (IP アドレス)」と「Subnet Mask（サブネットマスク)」の行を確認し、値を記入する

（A）パソコン側

IP Address (IPアドレス)	.	.	.	
Subnet Mask (サブネットマスク)	.	.	.	

「Subnet Mask（サブネットマスク)」の値を確認する

Subnet Mask (サブネットマスク)	255.	255.	255.	0

上記のように「255.255.255.0」であることを確認してください。
「255.255.255.0」以外の場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

「exit」と入力 し、Enter キーを押して終了する

本製品のネットワーク情報を調べる

1 ネットワーク設定リストを印刷する

「ネットワーク設定リスト」の出力 P.33

2 「IP Address（IP アドレス）」と「Subnet Mask（サブネットマスク）」の行を確認し、値を記入する

ここを確認

```
<IP Settings >
 IP Address                     192.168.11.250      (set manually)
 Subnet Mask                    255.255.255.0
 IP Gateway                     192.168.100.200
 Boot Method                    AUTO
 Boot Tries                     3
 IP Filter                      Disabled
```

（B）本製品側

IP Address （IPアドレス）	.	.	.	
Subnet Mask （サブネットマスク）	.	.	.	

パソコンのIPアドレスと本製品のIPアドレスを比較する

「パソコンのネットワーク情報を調べる」P.105で書き留めた（A）の値と、「本製品のネットワーク情報を調べる」P.106で書き留めた（B）の値を比較します。

（A）パソコン側

IP Address（IPアドレス）	xxx.	xxx.	xxx.	xxx

（B）本製品側

IP Address（IPアドレス）	xxx.	xxx.	xxx.	xxx

（A）と（B）の太枠の部分が同じであることを確認する

例

（A）パソコン側

IP Address（IPアドレス）	192.	168.	123.	011

（B）本製品側

IP Address（IPアドレス）	192.	168.	123.	250

灰色の部分の値が、（A）と（B）で異なることを確認する

3 **灰色の部分の値が、2～254の範囲内であることを確認する**

本製品のIPアドレス取得方法を確認する

「本製品のネットワーク情報を調べる」P.106で印刷したネットワーク設定リストの、「Boot Method」の項目を確認します。

ここを確認

```
<IP Settings >
  IP Address          192.168.11.250     (set manually)
  Subnet Mask         255.255.255.0
  IP Gateway          192.168.100.200
  Boot Method         AUTO
  Boot Tries          3
  IP Filter           Disabled
```

- 「Boot Method」が「AUTO」の場合
  本製品をパソコンと同じルータやハブに接続し、本製品の電源を入れなおしてください。それでも改善されない場合は、以下を参照して手動で設定してください。
- 「Boot Method」が「STATIC」の場合
  本製品のIP アドレスを以下のように設定してください。

IP Address（IPアドレス）	xxx.	xxx.	xxx.	xxx

太枠内

「パソコンのネットワーク情報を調べる」P.105の（A）と同じ値を設定してください。

灰色の部分

ネットワークに参加しているすべてのパソコンと異なる、2～254の値を設定してください。
この場合、他の機器と同じIP アドレスにならないように、200～250の範囲内でIP アドレスを選択することをおすすめします。（例えば、本製品の IPアドレス を 192.168.123.250 に割り当てます。）
詳しくは、お使いのルータの取扱説明書またはルータ提供元にお問い合わせください。

補足

本製品のIPアドレス設定方法は、P.20を参照してください。

ドライバの再インストールをする

現在の設定を有効にするために、ドライバのインストールを行います。既にインストールが完了している場合は、アンインストールが必要です。

アンインストール方法

［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［MFC-XXXX］を選び、［アンインストール］をクリックします。
あとの操作は画面の指示に従ってください。

付録

操作パネル以外からIPアドレスを設定する

TCP/IPプロトコルを使用するには、ネットワーク上の各デバイスに固有のIPアドレスを設定する必要があります。
ここでは、2章で紹介していない本製品のIPアドレスの設定方法について説明します。

IPアドレスの設定

● IP アドレスの自動設定機能

本製品は各種のIPアドレス自動配布機能に対応しています。
お買い上げ時の設定では以下の自動設定機能が有効になっており、本製品起動時に自動的に IP アドレスを割り当てることができます。

お買い上げ時の設定：IP アドレス配布サーバを使用する（詳しくはP.112を参照してください。）

- 設定されるIPアドレス内容は、IPアドレス配布サーバに依存します。
- 上記の IP アドレス配布サーバーがない環境では、APIPA 機能によって、自動的にアドレスを割り当てます。（上記 IP アドレス配布サーバからの割り当てが優先します。）

アドレス：169.254.1.0～169.254.254.255の範囲のいずれかになります。

サブネットマスク：255.255.0.0

ゲートウェイ：0.0.0.0

注意

■APIPA による割り当ては、使用しているネットワークでの IP アドレス設定規則に適さない場合があります。そのような場合は、APIPA以外の方法でIPアドレスを割り当ててください。

■APIPA機能を無効にしたい場合は、P.27を参照してください。
お買い上げ時の設定では、APIPAは「オン」に設定されています。

IPアドレスの自動設定機能が無効な場合は、使用しているネットワークのIPアドレス設定規則に合わせて、IPアドレスを変更してください。
IPアドレスは、次項「IP アドレスの設定方法」のいずれかの方法で変更できます。

補足

ネットワーク設定リストを印刷して、現在の設定値を調べることができます。
詳しくはP.33を参照してください。

● IP アドレスの設定方法

ネットワークの設定状態に応じて、以下の方法があります。
なお、使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。ルータ越しに接続されている場合は、さらにルータ（ゲートウェイ）のアドレスも設定します。

お買い上げ時の状態の本製品を使用する場合：

- 操作パネルを使用する。P.17
- BRAdmin Lightを使用する。P.42

TCP/IP で通信できる状態の本製品の設定を変更する場合：

- 操作パネルを使用する。P.17
- HTTP（ウェブブラウザ）を使用する。P.34
- BRAdmin Lightを使用する。P.42

補足

設定を変更するときは、パスワードの入力を要求される場合があります。お買い上げ時のパスワードは“access”です。

IPアドレスの設定方法

手動で設定する（BRAdmin Light）

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されたブラザー製品を設定するユーティリティソフトです。
ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP/Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008およびMac OS X 10.3.9以降に対応しています。

補足

IPアドレスの手動設定は、操作パネルからも設定できます。詳しくはP.17を参照してください。設定してあるIPアドレスを変更する場合は、HTTP（ウェブブラウザ）を使用することもできます。

BRAdmin Light での設定方法

注意

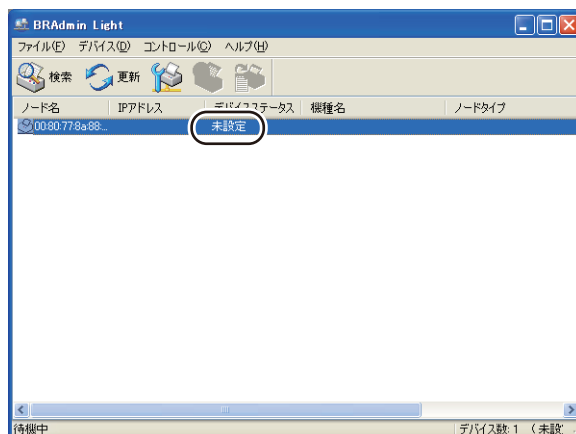
- ■BRAdmin Lightは付属のCD-ROM内に収録されています。
- ■さらに高度なプリンタ管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional ユーティリティ（Windows®版のみ）をご利用ください。
  BRAdmin Professionalはサポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/））で提供しております。
- ■BRAdmin Light を操作するコンピュータで、「ファイアウォール」を有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- ■BRAdmin Lightで表示される本製品のお買い上げ時ノード名は“BRNxxxxxxxxxxxx”となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）
- ■本製品のお買い上げ時のパスワードは“access”です。

BRAdmin Light ユーティリティを起動する

Windows® 版の場合は、［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順に選択します。
Mac OS X 版の場合は、デスクトップ上の［Macintosh HD］から、［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］－［BRAdmin Light.jar］の順に選択します。

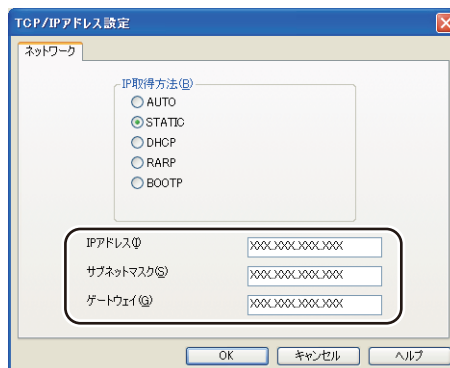
BRAdmin Light が起動し、自動的に接続されているデバイスを検索します。

［デバイスステータス］が「未設定」となっている本製品をダブルクリックする

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

補足

● 本製品がお買い上げ時の設定の場合（DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合）に、「未設定」として表示されます。

● ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。

［IP アドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力する

［OK］をクリックする

アドレス情報が本製品に保存されます。

DHCPを使用する

DHCPは、IPアドレス自動割り当て機能の1つです。ネットワークにDHCPサーバがある場合は、そのDHCPサーバから本製品に自動的にIPアドレスなどが割り当てられます。

DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用しない場合は、自動的にIPアドレスを取得しないように、操作パネル、BRAdmin LightまたはHTTP（ウェブブラウザ）を使用して、IPの設定方法をStatic（手動）に設定してください。

APIPAを使用する

APIPA は、IPアドレス配布サーバがない環境で、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。APIPA は、本製品のIPアドレスを169.254.1.0から169.254.254.255の範囲で自動的に割り当てます。また、サブネットマスクを255.255.0.0、ゲートウェイアドレスを0.0.0.0に設定します。

お買い上げ時の設定では、APIPA は「オン」に設定されています。APIPA 機能を「オフ」にしたい場合は、P.27 を参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

RARPを使用する

RARP は、問合せに対しRARPサーバが本製品のMACアドレスに対応するIPアドレスを自動的に割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。

補足

RARPサーバの設置についてはRARPの説明書を参照してください。

設定は、問合せを行うクライアントマシンに/etc/ethersファイルを準備して行います。/etc/ethersファイルに、以下の行を追加しておきます。

入力例：00:80:77:31:01:07　　　BRN008077310107

注意

この場合のホスト名はノード名を入力してください。お買い上げ時のノード名は“BRNxxxxxxxxxxxx”となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

続いてrarpd を起動し、RARPを確認するコマンドをサーバに送ります。

Berkeley UNIX システムの場合の入力例：

```
ps -ax | grep -v grep | grep rarpd
```

AT&T UNIX システムの場合の入力例：

```
ps -ef | grep -v grep | grep rarpd
```

RARPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。

RARPのコマンドは、使用しているシステムにより異なります。設定前にシステムのコマンドを確認してください。

BOOTPを使用する

BOOTPは、RARPとは別の方法でIPアドレスを取得する方法で、IPアドレスのほか、サブネットマスクやゲートウェイアドレスも取得します。
BOOTPを利用する場合は、あらかじめホストコンピュータでBOOTPを実行しておきます。

補足
BOOTPサーバの設置についてはBOOTPの説明書を参照してください。

● /etc/inetd.conf の編集

BOOTPを起動します。一般的には inetd から起動します。
/etc/inetd.conf を編集し、以下の行先頭の # （コメントアウト）をはずします。

```
#bootp dgram udp wait /usr/etc/bootpd bootpd -i
```

補足
システムによっては1語目の「bootp」が「bootps」になっています。

● /etc/bootptab の編集

/etc/bootptabを編集し、IP アドレスや BOOT 用ファイル名を指定します。

入力例： BRN008077310107 1 00:80:77:31:01:07 192.189.207.3 と

BRN008077310107:ht=ethernet:ha=008077310107:\ip=192.189.207.3:

BOOTPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。

構成ファイルにダウンロードファイル名を含めない場合、BOOTPサーバはBOOTP要求に応じません。

BRAdmin Professionalで管理する

BRAdmin Professionalをインストールする

BRAdmin Professional は、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼動するコンピュータから、ネットワーク上のブラザー製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。

BRAdmin Professional をサポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/ ）からダウンロードする

ダウンロードしたファイルをダブルクリックする

画面の指示にしたがってインストールする

注意

■Windows® XP で、「インターネット接続ファイアウォール（Windows® ファイアウォール）」を有効にしている場合は、BRAdmin Professionalの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効に設定してください。（Windows® XP Service Pack2 以降をお使いのお客様は、BRAdmin Professionalのインストール時に、Windows® ファイアウォールの例外としてBRAdmin Professionalを追加すれば、Windows® ファイアウォール機能を無効にする必要はありません。）
詳しくは、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

■アンチウイルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Professionalの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

ネットワークの設定をする

TCP/IP を利用して印刷するには、本製品にIP アドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定します。

補足

ゲートウェイの設定
ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で、送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つIP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。
ルータのIP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

IP アドレスは以下の方法で割り当てます。

- IP アドレス配布サーバを利用している場合

  本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP 、BOOTP 、RARP などのIP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。
- IP アドレス配布サーバを利用していない場合

  DHCP、BOOTP、RARPなどのIPアドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP ）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境の IP アドレス設定規則に適さない場合は、BRAdmin Professionalを使用して本製品のIP アドレスを設定してください。

補足

●お買い上げ時のIP アドレス
IP アドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下の通りです。

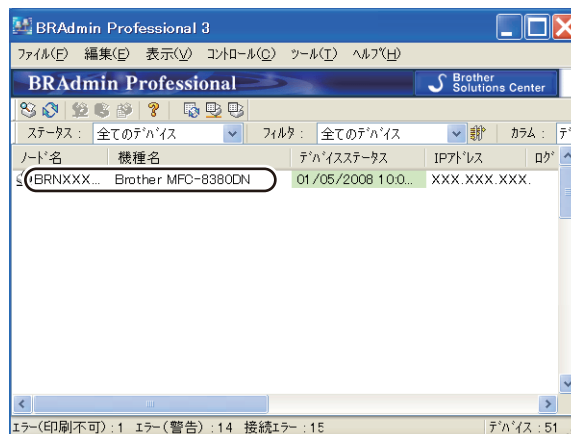
- IP アドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA 機能による自動割当）

現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.33 を参照してください。

●ノード名
ネットワーク設定リストP.33 にはノード名が印刷されます。
お買い上げ時のNetBIOS 名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx 」と同じです。
(「xxxxxxxxxxxx 」はMAC アドレス（イーサネットアドレス）の12 桁です。)

本製品とコンピュータをネットワークに接続した状態で、BRAdmin Professional を起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother Administrator Utilities］－［Brother BRAdmin Professional 3］－［BRAdmin Professional 3］の順にクリックします。

本製品を選択する

［コントロール］メニューから［デバイスの設定］をクリックする

「パスワード」を入力する

補足

お買い上げ時のパスワードは“access ”に設定されています。

本製品の設定を変更する

トップメニューが表示されます。

補足

- DHCP/BOOTP/RARP　サーバを使用せずに、お買い上げ時の設定のまま本製品を使用している場合は、APIPA機能によってIP アドレスが自動的に割り当てられ、BRAdmin Professionalに表示されます。
- 「ネットワーク設定リスト」を印刷し、現在設定されているノード名や MAC　アドレス（イーサネットアドレス）を調べることができます。「ネットワーク設定リスト」の印刷方法は、「ネットワーク設定リストの出力」P.33 を参照してください。

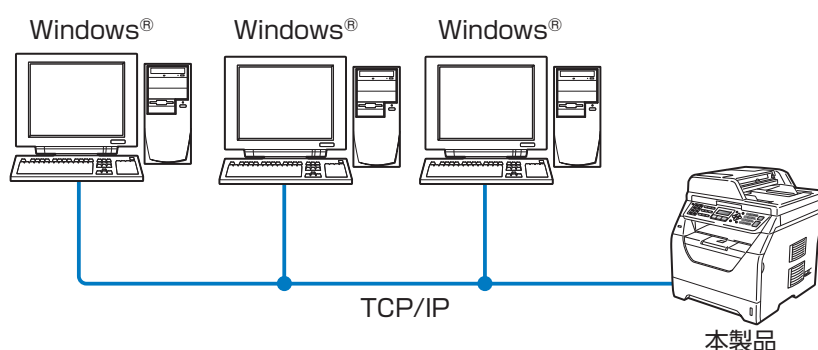
オートマチックドライバインストーラを使う（Windows®のみ）

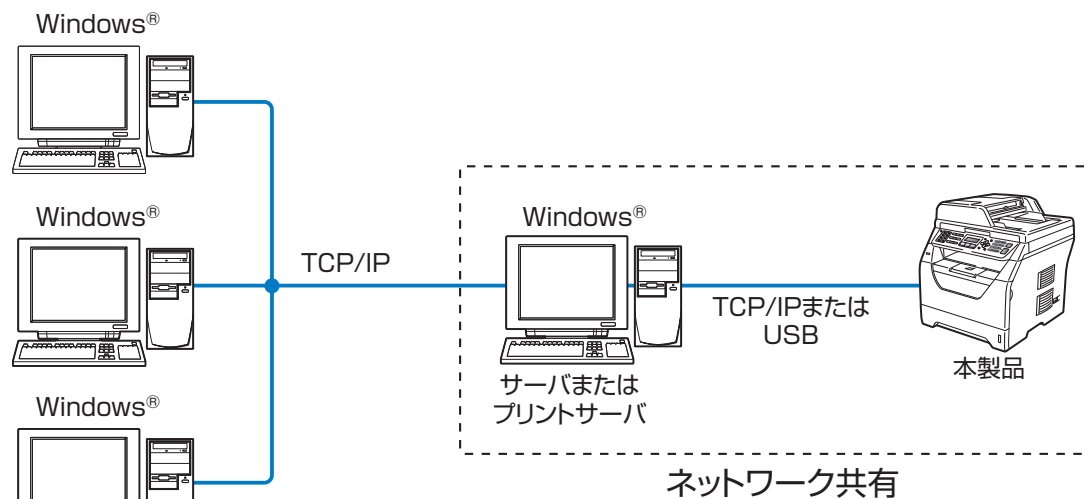
プリンタドライバをご使用の設定に合わせて作成するツールです。ネットワーク接続のみにオリジナルドライバを作成でき、ユーザーに配布することができます。配布インストーラは、OSごとの作成が必要です。
プリンタドライバとソフトウェア（ピアツーピア接続の場合）を同時にインストールできるため、わずらわしい設定作業をすることなくプリンタドライバの設定が可能になり、インストール作業の時間と手間を省けます。
このソフトウェアはWindows®専用です。

オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法

オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法は、次の2種類です。

● ピアツーピア接続

本製品はネットワークに接続されていますが、印刷データの管理などは行わず、直接本製品に印刷します。

● ネットワーク共有

本製品はネットワークに接続され、サーバまたはプリントサーバが印刷データの管理などを行い、本製品に印刷します。

オートマチックドライバインストーラをインストールする

コンピュータの電源を入れる

管理者権限をもつユーザーでログオンします。

本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

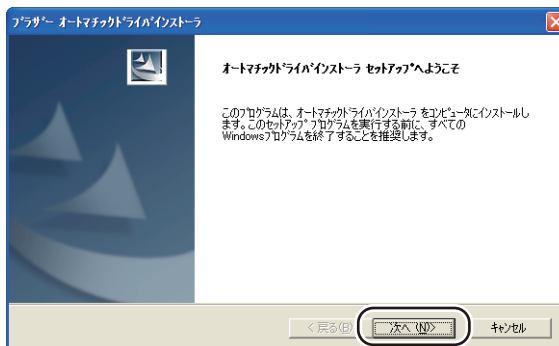
補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

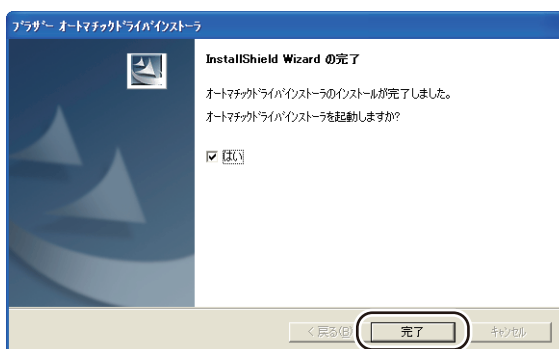
3 ［ネットワークユーティリティ］をクリックする

［オートマチックドライバインストーラ］をクリックする

Windows Vista®の場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

オートマチックドライバインストーラのセットアップ画面が表示されたら、[次へ] をクリックする

画面の指示に従い、インストールを完了させる

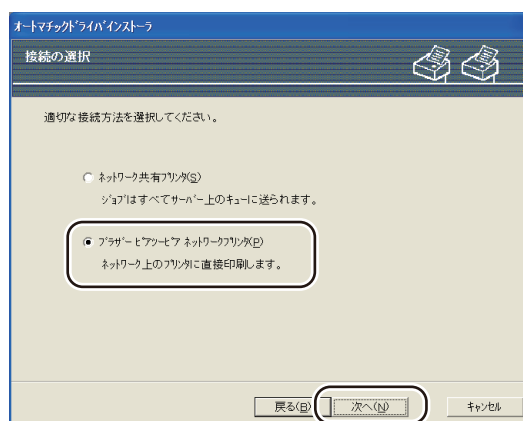
[完了] ボタンをクリックする

これでインストールは完了しました。
[はい] をチェックしている場合は、オートマチックドライバインストーラが起動します。

オートマチックドライバインストーラを使用する

「オートマチックドライバインストーラ」を起動すると、「オートマチックドライバインストーラへようこそ」の画面が表示されます。

［次へ］をクリックする

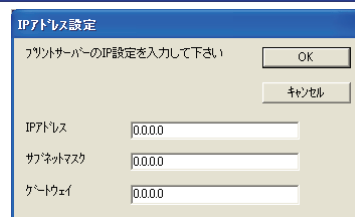
「MFC」を選択し、［次へ］をクリックする

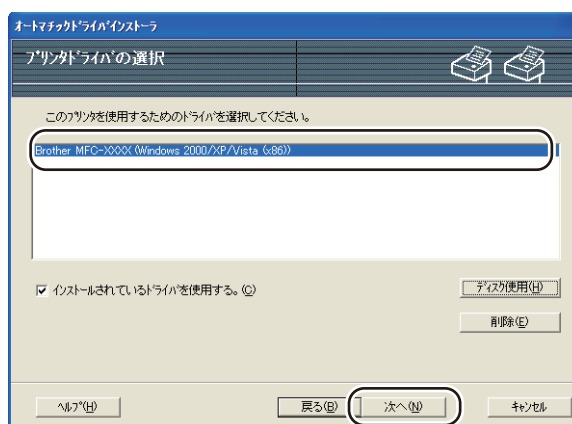
本製品の接続方法を選択し、［次へ］をクリックする

本製品を選択し、［次へ］をクリックする

手順３で「ブラザーピアツーピアネットワークプリンタ」を選択した場合は、右の画面が表示されます。

- IPアドレスの設定

  本製品にIPアドレスがない場合は、リストから本製品を選択し、［IPの設定］をクリックし、IPアドレスを変更できます。

  表示された「IPアドレス設定」画面でIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなどの情報を設定することができます。

プリンタドライバを選択し、［次へ］をクリックする

すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、「インストールしているドライバを使用する」をチェックし、表示されるドライバを選択します。使用したいプリンタドライバがコンピュータにインストールされていない場合は、［ディスク使用］をクリックし、プリンタドライバのファイルの場所を指定します。

プリンタ設定詳細画面が表示されたら、ドライバの設定内容を確認する

● 実行ファイルの作成

オートマチックドライバインストーラを使って、自動実行.EXEファイルを作成することもできます。自動実行.EXEファイルは、ネットワークに保存したり、CD-ROMやUSBメモリーにコピーしたり、他のユーザーにEメールで送信することもできます。

実行後は、ドライバとその設定が自動的にインストールされます。

- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーします。」

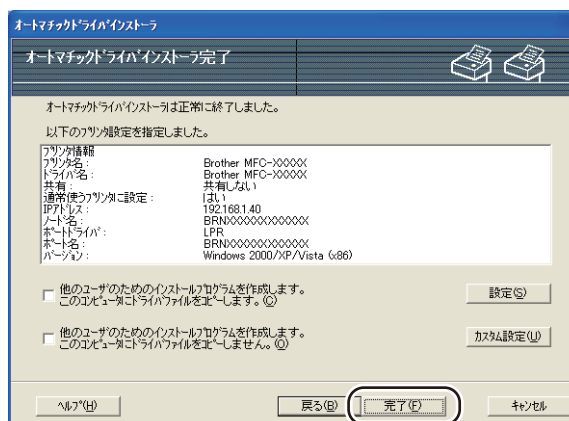
  ご使用のコンピュータにドライバをインストールし、ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム（OS）の他のコンピュータで実行する自動実行.EXEファイルを作成する場合に選択します。
- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーしません。」

  ご使用のコンピュータにドライバが既にインストールされているため、ドライバを再度インストールせず、ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム（OS）の他のコンピュータで実行する自動実行.EXEファイルのみを作成する場合に選択します。

補足

- 「キュー」に基づくネットワークで作業しており、実行ファイルに設定するものと同じプリンタキューにアクセスできない他のユーザーのための実行ファイルを作成する場合は、ドライバを遠隔コンピュータにインストールしたときに、LPT1印刷に初期設定されます。
- 手順5で「インストールされているドライバを使用する」にチェックを入れた場合は、［カスタム設定］をクリックして、用紙サイズなどプリンタドライバの初期設定を変更することができます。

［完了］をクリックする

プリンタドライバが自動的にインストールされます。

その他のプリンタドライバのインストール方法

Web Servicesを使用する（Windows Vista®のみ）

Windows Vista®の場合は、Web Servicesを利用してプリンタドライバをインストールすることができます。
Web Services を利用するには、ウェブブラウザから本製品の［ネットワーク設定］-［プロトコル設定］でWeb Services のチェックボックスにチェックが入っているか確認してください。

補足
“ホストコンピュータと本製品が同じサブネット上にあるか”、または“ルータが2つのデバイス間で正しくデータのやり取りができるように設定されているか”のどちらかを確認してください。

［スタート］メニューから［ネットワーク］をクリックする

本製品の Web Services 名がアイコンと合わせて表示されるので、右クリックして［インストール］をクリックする

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

補足
本製品のWeb Services名は、モデル名とMACアドレス（イーサネットアドレス）です。
例）Brother MFC-XXXX ［XXXXXXXXXXXX］

管理者権限のあるユーザー場合は、［続行］をクリックする
管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、［OK］をクリックする

「ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）」を選択する

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

管理者権限のあるユーザー場合は、［続行］をクリックする
管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、［OK］をクリックする

「オンラインで検索しません」を選択する

本製品に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットする

「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します（上級）」を選択する

CD-ROM ドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択し、［OK］をクリックする

X:¥driver¥win2kxpvista¥jpn
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

10

［次へ］をクリックする

インストールが開始されます。

インストールが終了したら［閉じる］をクリックする

ネットワークプリンタキューと共有を使用する

補足

- ネットワークに共有プリンタとして接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、キューと共有名を確認してください。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

コンピュータの電源スイッチを ON にする

管理者権限をもつユーザーでログオンします。

本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

［インストール］をクリックする

［プリンタドライバ（ネットワーク対応のみ）］をクリックする

補足

Windows Vista®の場合は､「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので､［続行］をクリックします。

［次へ］をクリックする

プリンタドライバのインストールが開始され、使用許諾契約画面が表示されます。

使用許諾契約の内容をよく読み、［はい］をクリックする

［標準インストール］をクリックし、［次へ］をクリックする

「ネットワーク共有プリンタ」を選択し、［次へ］をクリックする

製品のキューを選択し、［OK］をクリックする

補足

本製品のネットワーク上の位置や名前が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

10 ［完了］をクリックする

補足

本製品を通常使用するプリンタに設定しない場合は、［通常使うプリンタに設定］のチェックを外します。

仕様

プリントサーバ

項目	内容	
ネットワークノードタイプ	NC-6800h type 2	
対応オペレーティングシステム（OS）	Windows® 2000/XP/XP Professional x64 Edition、Windows Vista®、 Windows Server ®2003/2003 x64 Edition/2008 Mac OS X 10.3.9以降	
プロトコル	TCP/IP：IPv4	ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA (Auto IP) WINS/NetBIOS name resolution, DNS resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port 9100, IPP/IPPS, FTP server, FTP client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, APOP, TELNET Server, SNMPv1/v2c/v3, HTTP/HTTPS server, TFTP client and server, SMTP Client, ICMP, WebServicesPrint, SNTP, CIFS Client, SSL/TLS, LLTD responder
	TCP/IP：IPv6※1	(Turned off as default) NDP, RA, DNS resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port 9100, IPP/IPPS, FTP server, FTP client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, APOP, TELNET Server, SNMPv1/v2c/v3, HTTP/HTTPS server, TFTP client and server, SMTP Client, ICMPv6, WebServicesPrint, SNTP, CIFS Client, SSL/TLS, LLTD responder
ネットワークタイプ	10/100BASE-TX イーサネット	
ネットワーク印刷	Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、 Windows Vista® TCP/IP印刷 Mac OS X 10.3.9以降 Macintosh印刷	
管理ユーティリティ	BRAdmin Light ※2 BRAdmin Professional ※3 BRPrint Auditor ソフトウェア※4 ウェブブラウザ	

※1　IPv6 プロトコルの詳細は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/））を参照してください。

※2　高度なプリンタ管理が必要な場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/ ））から最新のBRAdmin Professionalをダウンロードして使用してください。

※3　BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/ ））からダウンロードできます。Windows® でのみ使用できます。

※4　USBを経由してクライアントコンピュータに接続している本製品に対し、BRAdmin Professionalから利用できます。サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/ ））からダウンロードできます。

お買い上げ時のLAN設定

お買い上げ時の設定は、下線で示しています。

メイン メニュー	サブ メニュー	メニュー 選択	選択項目	参照
7. ネットワーク	1. TCP/IP設定	1. IP取得方法	Auto Static RARP BOOTP DHCP (「Static」以外を選択した場合は、IPアドレスの取得を試みる回数の入力を要求されます。)	P.21
		2. IPアドレス	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.22
		3. サブネットマスク	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.22
		4. ゲートウェイ	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.23
		5. ノード名	BRNxxxxxxxxxxxx（32文字以内）	P.23
		6. WINS設定	Auto Static	P.24
		7. WINSサーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	P.25
		8. DNSサーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	P.26
		9. APIPA	オン オフ	P.27
		0. IPv6	オン オフ	P.27
	2.イーサネット	—	Auto 100B-FD 100B-HD 10B-FD 10B-HD	P.28
	3.スキャン to FTP	—	カラー100dpi カラー300dpi グレー100dpi グレー300dpi カラー200dpi カラー600dpi グレー200dpi モノクロ200dpi モノクロ200×100dpi	P.29
	4.スキャン to ネットワークファイル	—	カラー100dpi カラー300dpi グレー100dpi グレー300dpi カラー200dpi カラー600dpi グレー200dpi モノクロ200dpi モノクロ200×100dpi	P.30
	5.タイムゾーン	—	UTCXXX:XX UTC+9:00	P.31
	0. ネットワーク設定リセット	1. 決定	—	P.32
		2. キャンセル	—	

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

オープンソースライセンス公開

Open SSL について

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4) The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5) Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6) Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1) Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4) If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

MIT Kerberos statements

MIT Kerberos license copyright Version 1.6.3

Copyright (C) 1985-2007 by the Massachusetts Institute of Technology. All rights reserved.

Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Furthermore if you modify this software you must label your software as modified software and not distribute it in such a fashion that it might be confused with the original MIT software. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose.
It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (C) 1998 by the FundsXpress, INC. All rights reserved.

Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of FundsXpress. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. FundsXpress makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND
FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright 1993, 1995 by OpenVision Technologies, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of OpenVision not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. OpenVision makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

OPENVISION DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL OPENVISION BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Permission is granted to use, copy, create derivative works and redistribute this software and such derivative works for any purpose, so long as the name of The University of Michigan is not used in any advertising or publicity pertaining to the use of distribution of this software without specific, written prior authorization. If the above copyright notice or any other identification of the University of Michigan is included in any copy of any portion of this software, then the disclaimer below must also be included.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED AS IS, WITHOUT REPRESENTATION FROM THE UNIVERSITY OF MICHIGAN AS TO ITS FITNESS FOR ANY PURPOSE, AND WITHOUT WARRANTY BY THE UNIVERSITY OF MICHIGAN OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN SHALL NOT BE LIABLE FOR ANY DAMAGES, INCLUDING SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WITH RESPECT TO ANY CLAIM ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OF THE SOFTWARE, EVEN IF IT HAS BEEN OR IS HEREAFTER ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation is hereby granted, provided that both the copyright notice and this permission notice appear in all copies of the software, derivative works or modified versions, and any portions thereof.

NRL ALLOWS FREE USE OF THIS SOFTWARE IN ITS "AS IS" CONDITION AND DISCLAIMS ANY LIABILITY OF ANY KIND FOR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE USE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (C) 1986 Gary S. Brown. You may use this program, or code or tables extracted from it, as desired without restriction.

Part of the software embedded in this product is gSOAP software.

This product includes SNMP software from WestHawk Ltd.

用語集

● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line の略です。銅線の一般加入者電話(アナログ)回線を利用して、数M〜数＋Mbpsの高速データ通信を可能にする通信方式です。

● APIPA

Automatic Private IP Addressingの略です。

IPアドレス配布サーバが無い環境では、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てる機能です。

● APOP（証明付ポストオフィスプロトコル）

APOP は、POP3（インターネット受信プロトコル）を拡張し、クライアントがE メールを受信するときにパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

● ARP

Address Resolution Protocolの略です。

TCP/IPプロトコルにおいて、IPアドレスの情報からMACアドレスを調べて通知するプロトコルです。

● ASCII

American Standard Code for Information Interchange の略です。アメリカ規格協会が定めた情報交換用の文字や記号を数値表現したものです。例えば ASCII コードの「41」はアルファベットの「A」を表します。

● BOOTP

BOOTstrap Protocolの略です。

TCP/IPネットワーク上のクライアントマシンにおいてIPアドレスやホスト名、ドメイン名などのパラメーターをサーバーから自動的にロードしてくるためのプロトコルです。

● BRAdmin Light

BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista® および Mac OS X の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。ネットワークに接続されているブラザープリンタを設定し、そのステータスを確認することができます。

● BRAdmin Professional

BRAdmin Professional は、Windows® 2000/XP/Windows Vista® の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。BRAdmin Light では設定できないより高度なネットワーク設定ができます。
サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp)）よりダウンロードしてください。

● CIFS

Common Internet File Systemの略です。

Windows®のファイル共有サービスで利用されているプロトコルを拡張し、Windows®以外のOSやアプリケーションソフトでも利用できるプロトコルで、インターネットで標準的に利用されるTCP/IPを基盤としています。

● DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略です。

動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク上のIPアドレスを動的かつ自動的に割り当て管理するプロトコル。BOOTPの拡張版で、DHCPサーバーはDHCPクライアントの要求に応じてIPアドレスを割り当て、サーバーとクライアント間の通信にはBOOTPを使用します。メッセージのフォーマットやプロトコルは、BOOTPとほぼ同じです。

● DNS

Domain Name Systemの略です。

TCP/IPネットワークで使用されるネームサービスです。クライアントはDNSサーバー内のホスト名とIPアドレスの対応関係を記述したデータベースを参照することで、ホストの名前を指定してネットワークにアクセスできるようになります。

● FTP

File Transfer Protocol の略です。ネットワークでファイルの転送を行うためのプロトコルです。

● FTTH

Fiber To The Home の略です。電話局から各家庭までの加入者線を結ぶアクセス網を光ファイバ化し、高速な通信環境を構築する計画のことを指します。

● HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）でSSL を用いるインターネットプロトコルです。

● IP アドレス

IPプロトコルで使用するためのアドレスで、ネットワーク自体やネットワーク上のノードを特定する論理番号のことです。

● IPP

Internet Printing Protocolの略です。

インターネットなどの TCP/IP ネットワークを通じて印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコルです。特徴として、ウェブブラウザなどが使うHTTPプロトコルを用いてネットワーク上のプリンタに印刷を指示できるようになっています。インターネットを通じて遠隔地のプリンタにデータを送って印刷することもできます。

● IPPS

インターネット印刷プロトコル（IPP バージョン1.0）でSSLを用いる印刷プロトコルです。

● IPv6

Internet Protocol Version 6の略です。

現在インターネットで用いられているプロトコルであるIPv4の後継バージョンの名称です。増加するインターネットの使用者に対応するため、管理できるアドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータの送信などの改良を施した次世代インターネットプロトコルです。

● LAN

Local Area Network の略です。同一フロア、同一のビル内などにあるネットワーク機器を、Ethernet などの方法で接続したネットワークのことを指し、閉鎖されたネットワークという位置付けがあります。

● LLMNR

Link-Local Multicast Name Resolution の略です。リンクローカルマルチキャスト名前解決(LLMNR)プロトコルは、ネットワークにDNSサーバがないときに近隣のコンピュータの名前を解決します。LLMNRレスポンダ機能は、Windows Vista®などのLLMNRセンダ機能を有するコンピュータを使用する場合にIPv4、IPv6両方の環境で有効です。

● LLTD

Link Layer Topology Discoveryの略です。リンク層トポロジー探索(LLTD)プロトコルを用いると、Windows Vista®ネットワーク上で本製品を簡単に検出でき、分かりやすいアイコンとノード名で表示されます。このプロトコルの初期設定はオフです。

● LPR

Line PRinter daemon protocolの略です。

TCP/IPネットワークを経由して印刷を行うプロトコルです。主にUNIX系OSで使用されています。

● MAC アドレス(イーサネットアドレス)

イーサネット機器が持つ6バイトのアドレスです。ISO/OSIモデルの物理層およびデータリンク層で機能します。MACアドレスは機器内部に記憶されているので、ユーザーが変更することはできません。

● mDNS

Mac OS X v10.2以降でサポートされている機能で、mDNSを有効にすると、mDNSをサポートしているクライアントから自動的に認識されます。

● Microsoft Internet Print Services

IPPプロトコルを使用して、Windows® 2000/XP/Windows Vista®コンピュータを通じて印刷ジョブをプリンタに送るときに使用します。

● NetBIOS

Sytek 社が開発したアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)で、LAN 上のコンピュータが同じLAN上の他のコンピュータと対話する必要がある前提で設計されたインターフェースです。IBM Server、Microsoft LANManager 環境向けのアプリケーションを作成するときにプログラマが使用します。

● OP25B(Outbound Port 25 Bloking)

プロバイダのメールサーバを経由せず、直接送信しようとするEメールを遮断する方法です。

これによりプロバイダは、迷惑メールの発信に規制をかけることができます。

● ping

Packet InterNetwork Groper の略です。相手先ホストへの到達可能性を調べるコマンドです。

● POP before SMTP(PbS)

クライアントからE メールを送信するユーザー認証方法です。クライアントは、E メールを送信する前にPOP3 サーバにアクセスすることによって、SMTP サーバを使用する許可を得ます。

● POP3

インターネットでEメールを保存しているサーバからEメールを受信するためのプロトコルです。

● RARP

ARP プロトコルとは逆に、自ノードの MAC アドレスから「自分の」IPアドレスを求めるためのプロトコルです。

● SMTP

Simple Mail Transfer Protocol の略です。

インターネットでEメールを転送するプロトコルです。

● SMTP-AUTH(SMTP 認証)

SMTP-AUTH は、SMTP(インターネットE メール送信プロトコル)を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

● SNMP

Simple Network Management Protocol の略です。

ネットワークを監視し管理するためのプロトコルです。

● SNTP

Simple Network Time Protocolの略です。

TCP/IPネットワークを通じてコンピュータの時刻を同期させるプロトコルで、NTPの簡易版です。SNTPはNTPの仕様のうち複雑な部分を省略し、クライアントがサーバに正確な時刻を問い合わせる用途に特化しています。

● TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol(伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル)の略です。

インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト(アプリケーション)を特定して通信路を確立するプロトコル(TCP)と、通信経路に関するプロトコル(IP)から構成されています。OSI参照モデルでは、TCPはレイヤー 4、IPはレイヤー 3に対応しています。

● Telnet

自端末からリモートシステム端末へのアクセス機能、ネットワーク内での仮想端末の機能を提供するTCP 上のプロトコルで、リモートTelnetコネクションという文字単位の通信経路を設定します。通常ログイン時のパスワード認証以外に特別なセキュリティ機能は持ちません。

● UDP

User Datagram Protocol の略です。

TCP/IPにおけるトランスポート層に属するプロトコル。インターネットでは、音声や動画などのストリーミング送信などのデータ転送に使用されており、転送速度は速く信頼性が低いのが特徴です。逆に、TCP は転送速度が遅く信頼性が高いのが特徴です。

● Web Services

Windows Vista® の場合は、Web Services プロトコルを使用してプリンタドライバをインストールできます。詳しくは、「Web Services を使用する(Windows Vista® のみ)」P.124 を参照してください。

また、Web Services では、ご使用のパソコンから本製品の現在のステータスを確認することができます。

● WINS

Windows® Internet Name Service の略です。Windows®環境で、ネームサーバを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバが必要です。

● WWW

World Wide Web の略です。インターネットでの情報検索システム、サービスシステムのひとつです。

● イーサネットモード

イーサネットの転送速度と転送方法の設定のことです。

● サブネットマスク

IPアドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のことです。IPアドレスとサブネットマスクをANDすると、サブネットアドレスになります。

● ノード名

ネットワーク上で、本製品を識別するための名前です。

● ポート番号

複数の相手と同時に接続を行なうためにIPアドレスの下に設けられたサブ（補助）アドレス。ポートの指定には0から65535までの数字が使われます。FTPは21、HTTPは80、メール受信は110、などのように、ポート番号はサービスを特定するための番号です。

● ルータ

ネットワーク間（LANとLAN、LANとWAN）の接続を行うネットワーク機器の一つです。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
セキュリティ機能
困ったときは（トラブル対処方法）
付録

索　引